

第四回館山市議定会例会會議録（第三号）

一、昭和五十六年十二月十五日（火曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十三名

一番	神田 守隆	二番	石 井 謀
四番	横 溝 功	五番	福 原 勤
八番	石 井 昌 治	九番	松 下 正 己
一番	林 豊	一二番	栗 原 一 雄
一三番	近 藤 好 雄	一四番	渡 辺 昭 夫
一五番	伊 藤 幸 太 郎	一八番	流 山 源 次 郎
一九番	石 井 輝 久	二〇番	石 井 武 敏
二一番	吉 田 勇 治 郎	二二番	藤 田 益 治
二三番	菊 井 敏 博	二四番	和 田 一 郎
二五番	五十嵐 昇	二六番	伊 賀 多 朗
二七番	石 井 正	二八番	安 澤 徳 順
二九番	安 西 益 男		

四、出席議員 三名

七番	古 賀 礼 四 郎	一七番	黒 川 平 治
三〇番	山 口 康		

五、出席説明員

第一号から選挙管理委員会委員長を除く

六、出席事務局職員

第一号に同じ

七、議事日程（第三号）

昭和五十六年十二月十五日午前十時開議

議案第五十五号 千葉県市町村公平委員会共同設置規

約の一部を改正する規約の制定に関する協議について

議案第五十六号 館山市職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第五十七号 工事請負契約の締結について

議案第五十八号 字の区域及び名称の変更について

議案第五十九号 館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六十号 館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第六十一号 昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第六号）

議案第六十二号 昭和五十六年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

日程第三 請願第五号 西岬地区学校統廃合反対の請願書

日程第四 請願第六号 西岬地区学校統廃合の早期実現に関する請願書

開 議 午前十一時五分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十三名、これより第四回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日議事はお手もとに配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第五十五号ないし六十号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。
通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第五十七号工事請負契約の締結及び議案第五十九号及び第六十号館山市立中学校設置条例の一部を改正する条例の制定について及び館山市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について御質問を申し上げます。

昨今、世上を騒がす問題に工事発注をめぐる談合問題があります。今回、コミュニティ施設用地造成工事は鹿島建設が落札するとのうわさを事前に聞いていましたし、今回そのとおりになったわけがあります。鹿島建設副社長が日本土木工業協会の会長をしており、その会長の前田氏は、業界の話し合いによる受注は、発注官庁と業界にとって合理的な仕組みとしてでき上ってきたとして、これを談合ではなくて自主調整なんだというよりなことを言っているわけがあります。どんなに名前を変えようと、事前に落札業者を決めることは談合であります。入札制度について抜本的な見直しの必要があるとの立場から、幾つかの点について御質問を申し上げます。

まず、指名業者が何社であったのか、そしてその業者名を具体的に示してください。

次に、この入札では談合はなかったと言えるかどうか。入札価格の基礎になる積算書の提出を求めチェックすることは大変に有効だと思っておりますが、やっているのかどうか、お聞かせください。

第三点に、最低制限価格は予定価格に対して何％として設定したのか、御説明ください。

第四に、三回入札をやって落札者がなかったというふうに何っておるわけですが、だとすれば、業者を入れかえて入札することもできるはずで、そうすればもっと有利な契約もできるかと思えます。なぜあえて随契にしたのか、御説明を願いたいと思えます。

次に、議案第五十九号及び第六十号についてでございます。昨日の一般質問で御答弁がいただけなかった問題についてこの場で再度質問し、御答弁をお願いしたいと思うわけであります。

十二月十二日付の西岬地区コミュニティ委員会、西岬地区区長会名の学校統合問題についてと題する文書についてでございます。ここでは「この統合問題に関し、別紙のとおり統合に際して地区住民の要請を取りまとめ、市当局に対しこれが承認できるかどうかをたてましたところ、全面的に承諾できる旨の回答を得ました」としていますが、その内容たるや「交通費は文部省の基準より父兄負担の軽減を図ること。一家で二人通学する家庭については検討する。交通費は市の財政上の都合により打ち切ることなく永久に続けること。」こういふふうに言っているわけであります。また「授業終了後部活動に参加しても、必ず午後六時以前の時間帯で帰宅させること。ただし、学校の都合で上記の時間で帰宅で

きないときは家庭に電話連絡のこと」とか、「不良化防止の徹底を図ること。中学校統合の場合、現西岬中学校職員を二中に配置転用すること。」、小学校の統合は「道路の整備が完了後統合すべきこと。西小の跡地には西岬公民館分館として花の研究センター的な要素を持ったものを建設すること。東小跡地にはテニスコート四面をつくり、西岬住民の一堂に会することのできる室内会議室並びに室内体育館の建設をすること。」などなどあるわけでありす。

市当局は、この文書にあるように全面的に承諾できる旨の回答をしたのは事実であるのかどうか、お聞かせを願いたいと思うわけでありす。

住民の意向の尊重は最重要課題でございます。現在この問題で反対そして昨日賛成の署名といったふうに請願が出されましたが、問題が発展してきたのも、住民の意向が正確につかめていないというところが最大の問題だろうと思います。

昨年は、教育委員会において各部落におもむき住民と直接ひざを交え話し合う。こういう姿勢をとってまいりました。そうした中から、はだで住民の意向をつかみ五十六年度統合の中止という決定をされたのは大変賢明なことだろうと思います。

それが、今年に関しては直接住民の中にも入ろうとしなかった。二十二回も話し合ったということでございますが、それは一部の人に過ぎないし、結局住民の意向を代表したものと云えるのかどうか大変判断のむずかしいところでございます。そんなむずかしいことをあてにするならば、直接住民の中に入り、ひざを交え話し合うことが実際のことを、あるいは本当のことがわかるう

かと思うわけでありす。なぜ直接住民と話し合うことをしなかったのか。そしていまでもそうした姿勢をとろうとしないのか、お聞かせを願いたいと思うわけでありす。

先ほど伺った話でございますので、しかも緊急な、関連もある問題なので、きちんと確認しておきたい問題がございます。これは、この統合問題ではコミュニティの代表なり、あるいは統合問題専門委員なりということで、この統合の促進の、また請願者としても名前も出されております、この統合の地域における中心的な役割を果たしてきたというふうに思うわけでありすが、池田公憲氏が洲の崎部落の区長を昨日辞任したという話をお聞きいたしました。この経過について市当局では承知をしているのかどうか、だとすれば、その経過についての御説明を願いたいと思います。

以上、御答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えいたします。

第五十七号の工事請負契約の締結についてでございますが、御質問の第一点、業者名を申し上げます。株式会社大成建設、株式会社鹿島建設、株式会社清水建設、株式会社飛島建設、株式会社青木建設、株式会社三菱建設、株式会社東急建設、株式会社大林組、株式会社熊谷組、株式会社奥村組、株式会社竹中土木の十一社でございます。

この各社につきましては、談合の事実はなかったと確信をいたしております。

談合を防止するために設計書の提出を求めることが有効である

というお話でございますが、私もそう考えておりました、いま入札制度の見直しを行わなければいけないというふうに考えております。ただ、この十一月二十七日に建設大臣から中央建設業審議会に對しまして、現行の入札制度のあり方について見直しを含め検討が依頼されまして、現在審議が進行中でございますので、その結果に基づいて建設省、県から指導があると思われましますので、当市はそれに従って入札制度の見直しをいたしたいと思っておりますけれども、現在市では入札時に入札参加者の全員から連合等による入札の公正を害するような行為はしないという誓約書を提出させておりますが、さらに当面積算内訳書を入札時に提出させるように検討中でございます。近々実施に移し、疑惑の生じないように努めてまいりたいと考えております。

最低価格についての御質問がございましたが、これは公表すべきものではございませんので、御答弁を控えさせていただきます。さらに、落札者がなかったので随契をいたしたわけでございませうけれども、これは地方自治法施行令第百六十七条の二の規定によって行ったわけでございます。

次の議案第五十九号及び第六十号につきましては教育長の方から答弁をいたします。

○教育長（安田豊作君） 十二日に西岬地区コミュニティ委員会と西岬地区区長会の名前で出された学校統合問題についてのものについて全面的承諾を得た旨の回答を得ましたということについて約束したかどうか。これは第一番にここにつけられているものは市当局に対する要請であります。これはひとつ御承知いただきたいと思ひます。

それから、代表である池田公憲さんと会しまして、この話を聞きました。このことについては検討をし、努力し、実現を、可能性もあるでしょうというふうな話をしました。これは結局本年度当初からこのコミュニティ委員会が統合の条件として地区の皆さんの条件を積み重ねてきて、皆さんの現段階においては最終的な条件として集約したものをここにまとめたものだろうと思ひます。結論から言えば、あるいはもう少し検討を要する問題もあるし、それからこの中には約束したからいますぐできる問題ではないものもあるし、いろいろあります。そういうことから、これからの要請に對して私の気持としては交渉の過程で実現のために努力します。こういう意味のことを承諾という表現で池田公憲さんは使ったようでございます。

それから、この統合問題を進めるのに直接住民の中になぜ入らなかつたんだというよりなこと、私も気持の上では住民の皆さん個々とお話し合いを進めているつもりでおります。しかし、きのうもお話ししましたように、ここにはコミュニティ委員会という組織があり、各区の組織があります。その組織の方々と折衝していくと、区長さんやコミュニティ委員会の方々は、その組織の中をまとめていくと、こういう立場で話を進めていく。そういうないと物事は進まないわけでございます。

要するに、民主主義ということとは、私はあくまで一人一人ではなくて、多数決の原理と代表制の原理がありまして、代表というものの指示に従っていくというのがやはり民主主義じゃないかと思ひます。そうした代表と話を進める。こういう形で進めたい、私も今後もそういう形で進めていきたい。こう思っております。

以上。

（「答弁漏れ、区長の問題」と呼ぶ者あり）

○教育長（安田豊作君） 池田公憲さんは洲の崎区長の職にありまされども、区長を辞任したということについては私は聞いておりません。

○一番（神田守隆君） 工事請負契約についてありますが、今後入札の問題については見直しをするということで、大変いま国を挙げての大問題になつてゐるわけですから、そうした意味でも市の姿勢をきちんとしていただきたい。特にこの問題についても今後積算書の提出ということで考えていきたいと、先ほどの答弁の中では、この問題についてはちょっとニュアンスがはっきりしなかつたんですけれども、今回の問題についても積算書の問題をきちんとチェックするということになるのかどうか。

それと、最低制限価格の公表ができないということで大変残念なわけですが、財務規則によりますと七割ないし九割五分ですが、その範囲内で定めるといふことでありますから、予定価格よりもこれは一億を超えるような仕事であります。最低制限価格が七割とすればかなりの金額ですし、九五割としてもかなりの金額があったといふふうに見て当然だろうと思つてすから、その分だけ、三度の落札といふことでありましたけれども、入札業者をすべて入れかえてやつた場合には、その最低制限価格であるいは入札があつたかもしれない。そういう可能性はだれも否定できないわけでありす。

そういう点から、確かに地方自治法上随契に移るということができるとしても、これは長の判断だろうと思つてす。もう一

度すべて業者を入れかえ再度入札に付するといふ道もあるわけですから、それはその選択の問題であると思つてす。その辺の政治的な判断の問題についての市長の所見を伺つてゐるわけで、法律上それができるといふようなことの話ではございません。その辺についての、今後の入札の見直しという問題もありましょが、所見をお聞かせ願いたいということでありす。

それからもう一つは、指名業者を見ますと地元の業者が全く入つておらないといふ問題であります。現実にはこういう工事というものが地元の業者が下請という形で入るといふケースが非常に多く見受けられるわけでありす。そういう点で、この指名業者に地元業者を入れたなかつた、私どもはこれは競争でありますから大手が落札をしたといふことは、それはそういうことであろかと思ひますが、初めから競争にも参加をさせないといふのは、それは公平の原則に反してゐるのではなからうかといふふうに思つてあります。そういう点で、地元の業者を入れたなかつた理由をあえてお聞きするわけで、その辺についてお聞かせを願ひたい。さらに、今後の問題として、下請の問題については地元業者がそれに参加をする、こういうようなりわさも聞いておるわけでありす。その辺について市当局はどのような現在話があるのか、いか、承知してゐないのか、お聞かせ願ひたい。

次に、議案第五十九号と六十号に入るわけでありすが、教育長の話によれば、そうすると学校統合問題について全面的に承諾できる旨の回答があつたといふのは事実に戻しますね。検討と努力を約束したわけで、実現の可能性もあるんだといふ話をしたといふことで、全面的に承諾できるといふ回答を得たといふことで

は、これは大変な違いがありますから。しかも全面的に承諾できる旨の回答を得たということで、こういう内容をもって部落を回っているわけでありますから、これは大変な問題だろうと思うんですね。市当局の判断と、それからコミニティとの判断の間には大変な差があるというふうに思うわけであります。こういう事実と違うことだとすれば、教育長はこれは間違いですよということと、はっきりと西岬地区のコミニティの方に申し入れをするなり、その是正を図るなりするべきかと思うんですけれども、その辺についてそういうことを考えておるかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、代表制でやるんだ、民主主義というのは一つは多数決であり、一つは代表制であると、こういうお話であります。私もその原理、原則についてももちろんそれを否定するものでもないし、賛成であります。しかしいまのお話では、この代表というのはコミニティの委員であり、そうして区長であるというようにニューアンスに受けとめるわけでありますが、その中でも中心的に活躍をされてきた池田公憲さんが辞任したという事実を知らないというお話であります。これは事実とすれば大問題じゃないかと思うんですね。代表だ代表だということで話を進めてきた人が部落の皆さん方からは了解を得られなかったということになるわけです。したがって、そういう方との話し合いこれが有効だというふうに見るということ自身に問題が、疑義が大変あるんではなからうか、代表としての意味がなくなるんではなからうかというふうに思うわけでありますけれども、この点についてお聞かせを願いたい。

もう一点は、やはりこの問題は、いま大変代表制の問題ということがありましたけれども、区長さんなり、あるいはコミニティの委員の方にしてみれば、代表ということは大変な重みのある仕事でございます。部落に帰ったみんな反対だったと、いまそういう事態でございます。そして市当局に言わせれば、あんな方代表だろうということでその責任をかぶせられたんではたまったものではないだろうというふうに思うわけであります。

いま、やはりそういうことであるならば、直接住民の中に入っ、住民の意見を直接聞くというその姿勢が大変に求められている。いまが一番求められている時期だというふうに思うわけで、住民に直接その意向を確認する、こうした立場から住民との話し合い、昨年実施したようなひざ詰めの話を、これをする考えがあるかどうか。さらにあるいは住民のアンケートこれは一つの大変有効な方法であります。こうしたもので住民の意向を確かめる。こういうことについてのお考えがあるかどうか、お聞かせを願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 指名の業者を入れかえてもう一度やり直したらどうかということでございますが、この点につきましては予定価格と業者の応札の最低価格との差がそう大きくはございませんでしたので、従来の慣例に従い自治法施行令に基づいて随契をいたしたわけでございます。この幅があまりにも大きいような場合には従来でも業者をかえて入札を施行しております。今回はそういうわけで業者をかえるということはいえませんでした。

また、地元業者をなぜ入れなかったかというお話でございますが、この工事は内容及び規模から設計仕様書にうたわれておりま

すけれども、一級土木施行管理技士二名以上工事現場に常駐できるということを条件としております。さらにまた当該工事箇所は地盤が軟弱のため施行途上に発生した障害、たとえば地盤沈下等による施行変更に対処できるその方面の専門技術者を常駐できるという条件でございまして、残念ながら市内の業者にはそうした技術者を備えている業者がおりませんので、地元を除外をいたしましたわけでございます。

さらに、下請の関係につきましては、正式の契約を締結いたします場合に下請業者としてどういった業者を使いかけようかということを提示させることになっております。

以上、答弁を終わります。

○教育長（安田豊作君） いま回わっている回覧板ですか、各戸に回っているのは間違ひであるから取り消す気はないかということですが、間違ひというふうにお取りになりますか、全面的に承諾ということは一〇〇％、この項目は一〇〇％承知したと、ごらんになれば、日本語というのはいろいろあれですが、このまま一〇〇％できるというふうな文には取り得ない文もあるわけでありまして、これは全項目にわたって検討、努力の可能性があるんだ。こういうふうに取り扱いたしたいと思えます。ですから、ある項目については一二〇％実現するかもしれない。ある項目については六〇％しかできないかもしれない。そういうふうにとつた案を堅持でひとつお取りいただきたい。（笑声）

したがって、それとこれはもうすでに要請として出ておりました、請願が議会に出ておるわけでございまして、そこで御討議いただけるということで、またこの問題についてはもうその上の段

階にきているような気がいたしますので、私としては取り消す気持はありません。

それから、住民、コミュニティの代表というのは、コミュニティの代表制というのは池田さん一人ではなくて、いまは代表は池田公憲さんですが、いわゆる組織を持っているわけですから、組織と話し合っている。こういうことでございます。

それから、住民と話し合いを、ひざを交えて話し合いをする気はないかということ、これは前から代表とも話し合ひけれどもこれは機会があればということ、話し合ひ用意はいつでも持っております。いくらでもやる用意がございます。

○一番（神田守隆君） 入札の問題についてはおおむね質問を終わるわけですが、あと一点、予定価格と最後の三回目の入札の最低価格との差があまりなかったというふうなお話で、それから隨意契約によったんだと、こういうことでありますが、ここからこれから見直しされなければならぬところじゃなからうか。あまり差がないという問題がどういう認識のもとにあまり差がないというのか、それ自身が問題になろうかと思うわけです。

そのあまり差がなかったんだという場合に、予定価格との差は何ゆゑであるか、これなかなかお答えいただけるのかどうか。ただだけなければ残念なことなんです、具体的に何ゆゑというものが、基準ですね、これは最低価格の問題についてはきちんと基準で入れているわけです。財務規則の中で七〇％から九五％、最低価格というものがあるわけですから、逆にこの随契約から落札価格との差が小さいということで随契約に移るということであれば、また逆の基準なりが財務規則の中でうたわってあって

しかるべきではなからうかという気もするわけですが、その辺の御説明がいま現在ないわけですから、それが公表できないのか、できるとすればきちんとはっきりさせていたきたいということです。その一点だけで、この問題は終わります。

それと、学校統合問題についてありますが、いまの御答弁で大事な点は住民の方とも話し合うと、こういうことについてはいまの教育長さんの御答弁そういう姿勢は依然として持っているんだ。これは確認をしたいというふうに思うんです。住民の方から話し合いの意向や要望があればいつでも話し合いに応ずるんだということで、この点を確認しておきたいと思います。

その上、学校統合に対する要請、これは要請というふうに読むのか、あるいは確約というふうに読むのか。いまの答弁では一二〇％もあり、六〇％もある。そういうものだということでございますから、何が一二〇％で、何が六〇％かお話を伺いたいと思います。

内容を見ますと、中学校統合に関する問題で、交通費の問題に関するところで、市の財政の都合により打ち切ることなく永久に続けること。こういう約束をすること自身大変ばかげた話ですね。教育長さんだっていつまで生きているわけではないんですから、永久なんていう言葉はだれだって使えるわけじゃないですね。これは何％なんですか。いまの財政で一二〇％でなくて、六〇％の口なんですか、あるいは零％の口なんですか。

それから、授業終了後部活動に参加しても必ず午後六時以前の時間帯で帰宅させること。ただし、学校の都合で上記の時間に帰宅できないときは家庭に電話連絡のこと。こういうことを行政が

決めていいんですか、教育行政が決めていいんですか。これは学校の教育の内容ですから、教育内容に対する干渉行為だと言わざるを得ない。これについてどうお考えですか。これは文字どおり零％のことではなからうかと思うんですけれども。

次に、不良化防止の徹底を図ること。不良化防止の徹底を図るこれはあたりまえのことですね。私も大賛成であります。しかしきのうの答弁の中で、私は非行化という言葉を使いましたけれども、非行の問題というのは本人の問題であり、そして家庭の問題であることを強調されましたね教育長さんは。ここでは不良化防止の徹底を図るということで学校の責任といいますか、市当局の責任といいますか、こういうことが書かれておるといことは、どういうふうに理解したらいいんですか。学校に責任があるか。そういう立場を表明したという意味で理解していいのかどうか。きのうの答弁とつなげて考えてみますと、不良化、非行の問題が発生した。市は努力したけれども、結局本当はその問題というのは家庭にあり、本人の問題なんだということを言われたら、こういうことを書くこと自身何の意味もないわけです。

次に、中学校統合の場合、現西岬中学校職員を二中に配置転用すること。これは教員の人事をめぐる問題、統合になれば教員数はどういふふうになりますか総体的に、一年、二年、三年といろんな経過がございましょう。しかし教員が少なくなるといふことは間違いないことだろうと思っております。そうなれば西岬中学の先生はみんな二中に配置転用になり、そうすれば二中の先生ははじき飛ばされる、そういうことで理解していいのか。これも一〇〇％の話なのか、何％の話なんだかはっきりさせていただき

たい。

それから、小学校統合に関するもので、道路の整備が完了後統合すべきこと。これは逆に言えば、統合は道路が完成しなければそれまで延期するというそういう意味ですね。

次に、少し飛びますが、西小学校跡地に西岬公民館分館として花の研究センター的な要素を持ったものを建設することとか、東小の跡地はテニスコート四面をつくるということでありますが、いわゆる跡地の利用問題であります。これは住民の総意で決めますということを九月の議会でも教育長さん答弁されておると思うんですが、これが住民の総意だということなんです。住民の総意として花の研究センターをつくるとか、あるいはテニスコート四面をつくると、住民の総意ということが決められたことだというように理解をしておるのかどうか、お聞かせ願いたいと思います。

○市長（半澤良一君） 契約価格と予定価格との差が何%か、逆に言えば予定価格に対して契約価格が何%だったかという御質問でございますが、これも御答弁をひとつ差し控えさせていただきますと思います。

○教育長（安田豊作君） お互いの信頼感の上に立っての話し合いだったということが、今度は逆に細くなっちゃって困っています。一の通学費を永久に続けること。これは一〇〇%と解釈されますかどうかかわかりませんが、市の規則で決まっています。ですから、人間がかわっても変わらないということ。しかもその財政的裏づけは五カ年間は補助金があるけれども、五カ年過ぎた後も地方交付税の積算の中にあるんだということから、これ

は打ち切ることにはまずない。だから、都合により打ち切ることにはまず絶対ないと私は考えている。それ以上考えることは、約束にしても、何にしてもできない問題だろうと、それまで疑うてはいけないだろうと、こういうことでございます。

それから、第二の学校を六時以前に帰宅させること云々の問題でございますけれども、これは学校の問題だから干渉じゃないか、教育委員会はこうした生徒指導、学校運営の問題についての指導の義務を負っております。ですから、そういう意味で指導はしたい。指導はできるもの。こう思っておりますし、しかも六時という時間はかなり適当な時間だと、こういうふうに私は直感しております。それから遠いところですから、電話をかけるというようにすることも常識的な問題で可能だ。こういうふうに思っております。それから、不良化の問題が家庭の問題だと話したのに対して、学校は約束できるか、こういうことでございますが、きのうのお話は、学校はもちろん責任も持つし、指導もしておりますけれども、やはりその基礎になるのは個人の問題であるし、家庭の問題であるという話を強調しただけでありまして、これは家庭と学校と連絡、協調をする。その第二の帰宅時間の問題にもからんで指導もできるし、という意味で、ですから、これは約束何%と言われても困りますが、これは聞いている人の判断で願いたいと思います。

それから、中学校統合の場合に西岬中職員を二中に配置転用することということですが、これはよく文を読んでいただきたいんですが、西岬中職員を全員二中に配置することとは書いてありません。したがって、統合の場合の常識として生徒と一緒に元の学

校の先生が、それ相当の職員がついて行くということは常識でございませう。でございますから、しかもこれは人事権は県にありまして、協議の上、行われるわけですから一〇〇％、全員というところではありません。それから定員の問題になりますけれども、第一年は八割減です。ですから現在の職員のうち一人といたします。ですから校長、教頭が二人に三人も、四人も行くわけにいきませんから、それで調整できると思います。

それから、道路整備が完了後統合すべきこと。これは小学校の統合は道路の整備を三月三十一日までに完了する。その計画に基づいて今度の補正予算にお願いしているわけでございます。だから、よほどの天変地異といいますが、事情がない限り実現できる。こういうふうに考えております。もし今回の補正予算が可決されたあかつきは可能だ。こういうふうに私は考えております。

それから、六番の問題については、確かにおっしゃるとおり西岬地区民の要望に応じて跡地の利用は考えるということをお願い上げたことがございますが、そのとおりでございます。ここに書いてあることもそういう意味に私は取っております。ですから、こういう一つの考え方もあるし、こういうことでまとまれば、これはあしたからすぐつくるといふことでありませんので、統合したあかつきこういうことが実現するようにお話し合いを進めよう。だから、あくまで話し合いといいますが、約束といふことはお互いに信頼し合う以外に約束というものはできないものだ。こういうふうに私は解釈しておりますから、一〇〇％ということについては、そういう意味でひとつ御理解いただきたい。こう思います。

○議長（林 豊君） 以上で、一番議員君の質疑を終わります。

以上で、通告による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。

○二一番（吉田勇治郎君） ただいま五十九号、六十号議案について一番議員君がいろいろと質疑をなされておりますが、その中で中学校統合に関する問題、小学校統合に関する問題について、ただいままで教育長さんの答弁聞いていました。が、何だか疑心暗鬼にするような感じがいたしますので、簡単ですが、いまだこの地区から出た要望事項について今後どのような方法で、これは満たしておるといふふうに、前提のもとに賛成者は同意しておるわけでございますので、確たるところを教育長さん並びに市長さんの御答弁を願って、私たちも一応考えたいと思いますので、いかがでしょうか。簡単でございます。

論議はある程度まで尽されておりますので、しかもこの統合問題は昭和四十一年以来いろいろと先人が研さんを積まれて、教育の機会均等を基本として推進していこうという問題でございますので。しかしながら、やはりその中にも法の精神を生かして住民の権利、義務を十二分に考慮してやりなさいということでございますので、そういう意味合いからこの統合が提案され、かつ地区の方々がこのような条件を出されたら、かように考えられまうので、もう最終段階でございますので、簡単でございますが、これに対する見解を教育長さん、市長さんをお願いいたします。

○市長（半澤良一君） この要望、要請事項につきましては、教育の内容につきましては、教育行政の内容につきましては、ただいま教育長から答弁をいたしましたところでございますし、また私の後に続けて教育長から答弁申し上げますが、この中で財政的な裏づ

けを必要とするもの、たとえば小学校に通ずる道路の整備、体育館あるいは校舎の増築をというようなことは、私が責任を持って実現をいたします。

それから、統合後の問題でございますが、西小、東小の跡地の利用の要望でございますが、これは教育長答弁いたしましたように、これは基本的には地区住民の方々と十分話し合ってその御要望にこたえるということを基本にしておりますが、ここに出ております花の研究センターとか、あるいはテニスコート四面とか、あるいは西岬地区住民が一堂に会することのできる室内会議場及び体育館そういうものについては、これはやはり今後具体的には、住民が一堂に会するといっても四千人も、五千人も入れるホールはできるわけではございませんし、具体的にどの程度のものかというようなことを煮詰めて、その方向で実現を期していきたい。

さらにまたもっとも、あるいはこれ以上の御要望があるかもしれない。そういうことを考えながら実現を期していきたい。

そういう意味で、この御要望は受けとめていくわけでございます。

○教育長（安田豊作君） この要望の中で、これを実現していくためには、教育委員会としては教育委員会規則をつくっていくわけでございます。そしてさっき話しましたように、通学費の問題についても今後変わらないうような歯どめといえますか、そういう形でもっていきたい。こういうふうに考えております。

それから、学校運営、生徒指導の問題については、この議会の中の補正にもお願いしてありますが、統合のあかつき不便を来さないような準備を進めるような、気のつく限りは一切考えておるつもりでございます。

以上、ここに書いてある要望については実現できるよう最大の努力をしたいということで、細かい点については委員会と細目を決めていく。こういうことで御了承をいただきたいと思っております。

○二一番（吉田勇治郎君） ただいま、市長さん、教育長さんから御答弁がございましたが、振り返って古いお話ですが、館山教育をどり持っていくかというところが諮問されたのが昭和四十年ですが、そのように私たちは受けとめるわけでございますが、その中には大綱を三つに分けてあるわけでございます。その三つを大綱に分けて理想の学校とか、本当にいまの法に照らし温かい言葉が盛られておるわけでございますが、やはりその中で最も大事なことは平等の負荷をかけるということでございます。今後この点に、ただいまの市長さんのお話の中ではまだまだ落ちたところがあれば十二分に学区民の要望を入れて真の教育の進展、子供の幸せのためにいかなる犠牲もはらうというふうな御答弁がありましたので、教育長さんの答弁もそのような趣旨に受けとめてよろしくございますか。

○教育長（安田豊作君） そのとおりでございます。

○四番（横溝 功君） 議案五十七号について質問いたします。

これはコミュニティセンターをつくるということでございますが、これが当然埋め立てが考えられるのは当然でございます。しかし、先日私は質問いたしましたとおり、十一月二日のあれだけの雨で川があふれると、こういう現況を見ますときに、私は埋める前にあそこの川を底打ちするなり、そういう方が先であって、私はそう思います。

きのうも言いましたように、十一月二日は二十五ミリしか降らない。一時間にですね。過去には七十ミリ以上一時間に降っておるわけで、こうなりますと、これは長期に埋めるわけですから、その間大雨が降らないとは限らない。その辺どうなるのか、そういう点。

それと、もう一つは、国道を一方から埋めるわけなので、あの交通の混雑を思うときにいつ埋めるのか、夜間埋めるのか、どうするのか、そういう点ですね。そういう点非常に重要だと思います。

以上の二点について御答弁願います。

○市長公室長補佐（川上義雄君） コミュニティセンターの敷地につきましては、御案内のとおり敷地の北側の半分は現在南町排水路に雨水が流れているわけですが、あとの残りは境川に直接排水しているわけでございますが、コミュニティセンターの埋め立てによって雨水の量がふえるということがないわけでございます。コミュニティセンターの造成の途中におきましては素堀を掘りまして境川の方に一部流れるように、また一部は今までどおり南町の排水路の方に流れるようになるわけでございますが、埋め立て、建物全部でき上った場合には全部境川の方に流れることになるわけでございます。その場合に、現在境川は両岸が護岸になっておりまして、底面だけは素堀のままになっておるわけでございますが、コミュニティセンターの埋め立てに伴いまして設計業者にその関係についても一応見ていただいたわけですが、その中で境川の床面を舗装といいますか、コンクリート打ち込みをするることによって流れがスムーズになり、いままで災害があったような

ものにつきましても、今後流れがスムーズになることによりまして大丈夫だというふうな答えを得ております。

それから、埋め立ての関係につきましての交通の関係でございますが、やはり埋め立ての仕様書の中に、埋め立て業者は関係交通法規を順守し、交通安全に対して十分注意し、必要に応じ交通管理人を配備しなければならない旨がうたわれております。御承知のようにコミュニティセンターの埋め立てをするに際しましては、入り口が国道百二十八号しかございませんので、こういった業者に市といたしましてもお願いしまして、できるだけ渋滞の起こりそうな時間をなるべく避けていただくようにお願いしたいと思っております。

○四番（横溝 功君） 川の床ですね、これは埋め立てと同時にやるんでしょうか。それが一つと。渋滞しないときにやると、交通のその時間帯は何時なのか、いつ辺か。こういうことについて再度お伺いします。

○市長公室長補佐（川上義雄君） 境川の床面のコンクリート打ちでございますが、来年度の予算計上いたしましてやりたい。こういうふうに考えております。

それから、交通渋滞の関係でございますが、先ほど言いましたように入り口が百二十八号一つしかございませんので、なるべくということをお願いする以外にないかと思いますが、なお業者と相談いたしまして、できるだけ繁雑にならないようにお願いしたいと思っております。

○四番（横溝 功君） 責任は市長にありますので、市長さんひとつよろしくお願いいたします。いかがですか。

○市長（半澤良一君） 御心配のような事態の起こらないように十分注意いたします。

○二九番（安西益男君） 五十七号について若干お聞かせいただきます。

今回、このコミュニティ施設用地の造成工事指名競争入札で落札に至らなかった。したがって、随意契約したということのようでございます。先ほどもお話がございましたように、大変談合という非常に大きな問題が問題になっておるわけでございまして、もちろんこの件については談合があったというふうには解したくないわけでございます。しかしながら、大手だからということでは大手はほとんど談合を当然視している。こういう傾向がありますね。はつきりしております。

それで、先ほど事前にわかっておったというふうなお話のようですけれども、私はそのように思いたくありません。しかしながら、私の勘といいますか、たぶんここに落ち着くのではないかと、いう勘がしておりました。そのようになつたようでございますが、ここ数年大企業が技術面あるいは監督面というようなことで入札に参加されておるわけでございます。昨年、今年またさらにこういったことについて仕事をする機会が多くなつておる。

さらにまた、下請これもここにいくんではないかという、そういう予想、あるいは今回のコミュニティはそのようになっていくんではないかというように感じもするわけでございます。そこでですね、請け負った大企業から下請に出すピンはね非常に割りが大きいように思ひ。したがって、そんなにもうかるものかな、下請も相当もうけなければならぬわけですから、そういうったこ

とで相当利益を上げてゐるのではないか、相当幅があるんではないか、そういう感じもいたします。こういった点で十分検討して監視していただきたい。

先ほど、一番議員のお話ですと、いまの制度を見直していきたい。当然見直していただきたいと思ひます。今後見直しについてはどんなふうな方法で見直していくようにお考えになつていらっしゃるか、それをお聞きしたいと思ひます。

○市長（半澤良一君） 先ほど、一番議員さんにも御答弁いたしましたように、確かに世上大変談合問題が騒がれておりますし、国においてもそれに対応策を講じておるようでございますので、国及び県等の指導を受けながらやっていきたいと思ひますけれども、当面市でできることからやっていきたい。そういう意味で積算表の提出を求める。そういうことでございまして、いずれにしてもそうした談合といったような事態の起こらないような努力をいたしたいと思ひます。

○二九番（安西益男君） これは私の記憶違いかどうかわかりませんが、五十二年頃でしたが、鹿島建設不正で大変問題になったというふうに記憶しておりますし、館山も一時取りやめというふうになつたと記憶しておりますが、こういったことはどうだったんでしょうか。

○総務部長（石田雄一君） ただいまの質問でございしますが、昭和五十二年当時の市の発注いたしました事業の中に（「不正があつたというようなことはなかつたでしうか」と呼ぶ者あり）

御回答申し上げます。当時そういう事実はなかつたわけでござ

いますし、また鹿島に発注した事業もございません。

○二九番（安西益男君） 鹿島発注ということでなく、地方でそういうことがあって、参加をさせることは見合わせるということとをちょっと聞いたものですから確認したわけでございます。なければ結構でございます。

いずれにしても、いままでと違ひまして、こういった入札には大衆市民の感覚も関心が高まっておりますので、十分そうしたことを踏まえてお願いしたいと思います。

それから、地元の業者には建物と違つてあつた土地については分割してやる、発注するような方法ではないものかどうか全部が技術なり、監督しなければならぬということとなく、業者もたくさんあるわけですから、そういった点で、できる範囲の方法はないものかどうか。分割してここからこまでは地元でできるといったような方法の発注の仕方は今回の場合、さらにまた今後どうかということ、その点を一つ伺ひます。

○市長（半澤良一君） その点につきましては設計業者にも申し上げたこともございますけれども、土地の地盤の問題とかが大きな理由でございますが、そうした理由もございまして、規模等から考えて土地の業者では技術的に無理だという、やはり一級土木施行管理技士ですか、そういうものがいなくては困るという、そういう意見でございまして、結果的に分割をしなかつたわけでございます。

○二三番（菊井敏博君） せっかくの機会ですから、工事の問題について確認というんですか、また考え方を一点だけ聞かしてもらいたいと思ひます。

ということ、私も鹿島が請けたという形の中で、この前三中の問題で雨漏りということが起きたんで、今回は鹿島が遠慮するといふふうに思つたんですが、またいろんなふうに談合問題等いろいろな世間が騒がれて、私は談合ということは最初から反対の立場をとつてきて議会でも再三言つておりますが、今度の問題にあつて、この埋め立てが終わると、次の施設ができますね。そういう場合に自動的に鹿島さんがこれに関連した形のものが自動的についちゃうわけですね。そういう形をなくするようなために、こういう不景気の時代ですから、鹿島が埋め立てやったら、この次は鹿島建設は指名から遠慮してもらつたというよりな考え方はどうですか。

○市長（半澤良一君） 現在の段階ではそこまで考えておりませんでした。

○二三番（菊井敏博君） そういう形は検討の余地がありますか。当然そういう形になつていくんですよ。これが悪い慣行で、小さいものを取りうといふこととていろんな談合が始まつてくるわけですね。土地なら土地を埋め立てた業者は一回やつたんだから、次の上物のときは遠慮してもらつたといふことを館山市がとってもいいと思ひますよ。そういう考え方が持てるか持てないか、一つだけ。

○市長（半澤良一君） 考えてみます。

○一二番（栗原一雄君） 第五十九号についてお尋ねしたいと存じます。

四十一年に館山市の学校統合問題の諮問に対する答申が行われたわけでございます。その中で特に問題になりますのは、学校規

模の適正化による教育効率を上げるんだ。こういったことで答申が行われました。

さて今回、六十一号の議案の中で一般会計におきまして西岬地区の通学用道路新設工事請負費六千三百余万円が計上されており、教育基本法第十條教育行政に明記されておりますように「教育は、不当な支配に服することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われるべきであり、教育の目的を遂行するに必要な諸条件の整備確立を目標として行われなければならない」と示されておりますので、今回の議会に補正予算の中に計上され審議を待つものと考えられますが、統合についての教育行政があまりにも前向きではないのではないか、このように疑問を感じるものでございますが、すでに十数年前に答申が行われて今日まで放置されましたこの大きな理由についてひとつお尋ねをしたい。かように考えます。

○教育長（安田豊作君） 四十一年に答申が出されて、適正な規模での教育の推進が教育効果の向上に非常に役立つんだということを示しておりますが、いまから十年前ぐらいまでは西岬中も、いま数字的にははっきり覚えていませんけれども、いまのような学級規模でなくて、もっと大きかったわけでございます。適正規模ではないけれども、まあまあがまんができるということでした。いうこと。それからさらに敷えんしますと、三中に昨年統合した四中は、あれは館野、九重が統合してやはりまああの学級数だった。そういうことでしのいできた。こういうことでその後すぐやればよかったということも指摘されれば確かにそういう点もありますが、前にはある程度の規模があった。こういうことで延び

た。こういうふうに考えています。

○二一番（吉田勇治郎君） 学校の統合問題で、あるものがなくなる、なくなってもよくなるということは、非常に高度な人はわかりがいけれども、やはり中から下の者は、あるものがなくなる、ないものがあるようになってくる。これはなかなか納得しにくいわけですね。

いまも、一二番議員さんから四十一年の二月十一日に出た館山市学校統合に対する答申ですが、その名称が館山市学校統合問題審議委員会というような形で先人が審議されて、非常に内容は、さっきも簡単に申し上げたけれども、非常に内容がいいですね。これが実施されれば本当に合併で反対するような人は一人もなくなるわけですが、たまたま方法が悪くて反対者もあるけれども、その反対者の説得には責任を持つというような論議の中で受けとめておりますから、その点はよしにいたしました。一応いま出尽した問題より以上に、まず問題は、やはりさっきも内容を分けるとその答申は三つになると、その問題で一番ネックになるのが通学の問題だと、過酷な子供に労をかけないという、この配慮がやっぱり永久に続くものでありますので、この点を忘れないようにしていただきたい。すなわち、まだしゃべりたいことはいくらでもあるけれども、この答申案をじっくり市長さん初め関係者は何回でも読んでいただくということを私は希望するものでございます。

いろいろ、今回も一億余の緊急予算を組んで地区の要望を満たしておられるわけですが、まだまだいろいろと地区には、さっきも申し上げましたように、あるものがなくなる、ないものがよい

けれども、あるようになるというような、この納得のいくのはなかなか容易な、至難ではないわけでございます。

そういう意味からいたしましたも、この学校は、小学校がなく、跡地の利用については本当に真剣になって考えていただくということ。いずれにいたしましても、通学の問題等を勘案いたしましたして、その点を教育委員会等も、特に市長さんは、教育委員会がやるべというても、市長さんが銭を出さなければやれない問題ですが、そういうようなことをひとつ考えて、特に強調されている最後の精神的、労力的、経済的これを均等にしてやりなさいと。これは自治法の中でも十分うたわれておる。自治法の負担の平等性というようなことをひとつ忠実に守っていただく。約束ができたから、老婆心ではありますが、もう一度この統合問題について、今後まだあるわけでございます。残っておるわけでございます。神余小もあります。場合によっては房南中も考えなくちゃならない時代も来ないとは断定できないわけであります。

そういう意味合いからいたしまして、教育環境の整備ということについては特段の御努力をお願いするわけでございます。特に先人のつくったこの答申案について、いま一二番議員さんも言われましたが、市長さんを初め教育長さんの見解を求めて質問を終わります。

○市長（半澤良一君） 先ほど御答弁申し上げましたように、財政的裏づけの必要なものは、私が責任を持って処理をいたします。

○教育長（安田豊作君） あと、労力的問題になりますけれども、幸いバスが通っておりますので、バスの時間は調べました。一番遠いところで三十五分でございます。それから後歩く時間を足し

ても一時間以内には通学できる。こういうことでございます。

ただ、精神的問題というのが非常にむずかしい問題で、ここで御理解を得べく努力をしておりますが、それは統合のあかつきの実績においてお返しするというように努力するということを約束しまして、御期待に沿うように努めたい。こう思っております。

○議長（林 豊君） 以上で、質疑を終結いたします。

委員 会 付 託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっております議案第五十五号ないし議案第六十号の各議案は、お手もとに配付の議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時三十分開会いたします。

午後零時二十三分 休 憩

午後一時四十分 再 開

○議長（林 豊君） 午後の出席議員数二十二名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第六十一号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算及び議案第六十二号館山市水道事業特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

二〇番議員石井武敏君御登壇願います。

(二〇番議員石井武敏君登壇)

〇二〇番(石井武敏君) 私は、いま議題になっております補正予算に関しましてすでに質問の内容を通告してございますので、その通告の内容に従って御質問申し上げます。

まず、一八ページの老人福祉費の二十節の扶助費であります。これは老人ホーム収容措置扶助費でございまして、説明書によりますと措置人員の増加と基準改定によるということになっております。措置人員の増加とは収容人員が増加したことによるものであると思いますが、どの程度の増加をしているか。また基準の改定はどのような基準で、どのように改定になったかを御説明願いたいと思います。

御承知のように、当市におきましては老人人口の増加は他市と比較しまして急速な伸びを示しております。全国平均でいきますと、全国の人口の一二・六％が老人ということでございまして、千葉県内の人口で対比しますと、千葉県内では九・九％、当市はこれは資料として二年前の資料でございしますが、一三・二％ということで非常に高い率を示しております。

今後の将来を考えてみますと、これから増加をしてくる老人の扱いはさまざまな角度から考えられていかなければならないと思います。こうした実態を把握しながら今回の老人扶助費の増額を見てみますと、やはりこうした施設に頼る老人も増加しているということを示しているわけでございます。これからおそらく増加の方向をたどるであろうと思われるので、さきの御質問

に御答弁をいただきたいと思ふ次第でございます。

次に、一九ページの三項一目十九節でございますが、ここに七項目にわたる補助金がありますが、当局の補助金の説明を説明書によりましてその実態を把握しようとしたんですが、説明が説明書によりますと不十分でございます。

たとえば、乳児保育奨励費補助金は、これは県の交付要綱の一部が改正になりました名称が変わったとなっております。その名称は乳児保育特別対策補助金ということになっておるわけでございますが、名称が変わっただけではなくて、事実上は名称が変わりながら減額になっているように思います。

それから、延長保育運営費補助金でございますが、これも県の交付要綱の一部改正によって名称が変更されておりますが、これも長時間保育運営費補助金という名称に変わりました、大幅な減額になっておりますが、その間の事情を御説明願いたいと思うのでございます。

なお、その他の補助金につきましても、この説明欄では不十分でございますので、御説明をいただきたいと思ふます。

次に、二二ページの十五節の林道の舗装工事の請負費でございますが、この減額の理由を御説明願いたいと思ふます。

次に、二三ページの十三節の委託料でございますが、この委託料は花摘み園の運営方法の変更による減であるというように説明がなされておりますが、運営の方法がどのように変わって減額になってきたか、その変更の内容をお示し願いたいと思ふます。

次に、二三ページの十六節の道路維持補修工事材料費でございますが、この材料費の工事内容をお示し願いたいと思ふます。

次に、二五ページの十款十三節の委託料でございますが、これは過脂肪児検診委託料でございますが、この検診委託料は二六ページとの関連もあります。具体的にどういう検診を行い、過脂肪児対策としてはどのようなことが考えられるか、御質問するものでございます。過脂肪児は現在食生活の変化によりまして全国的に増加が目立ってきておりますので、その対策方をあわせて御質問するものでございます。

次に、二六ページの十五節の船形小学校校舎防音改築工事請負費の減額でございますが、第二期内装工事の実施単価の減について御説明をいただきたいと思ひます。

二七ページ十五節でございますが、ここに工事請負費の減について、これは博物館の建設におきます減額でございますが、減額の理由を御説明願ひたいと思ひます。

それから、二七ページの十三節委託料であります。これはマラソン大会の委託料でございます。さきの通告質問でこのコースを公認記録のとれるコースに昇格できないかという質問を行ったところ、今後検討していくという旨の答弁を受けましたが、今回参加人員の増加による経費の増額がなされているようですので、この経費の内容を具体的に御説明いただきたいと思ひます。

以上、御質問申し上げますので、御答弁をいただきたいと思ひます。なお、御答弁によりまして再質問いたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

まず、一八ページの民生費老人ホーム収容措置扶助費について

でございますが、当市の該当者で養護老人ホーム及び特別養護老人ホームに入所される方を七十五名と推定し、当初予算の扶助費を一億一千八百九十九万九千円を計上いたしました。入所者が若干ふえてまいりまして、十月末には七十九名となっております。なおこれに三名程度の増加が見込まれますことと、例年人事院勧告に基づいて措置費中の事務費が改定されますので、これを推計しますと、決算時点で七百四十八万四千円の不足を生ずる見込みとなりますので、同不足見込み額の追加計上をいたしましたわけでございます。

一九ページ児童福祉総務費についてでございますが、これは私立保育園に対する運営費の補助金でございますが、本年度に県の補助金交付要綱の一部改正に伴う名称変更等によるものと、新たに該当することとなったものであります。

まず、乳児保育奨励費補助金は乳児特別対策補助金に、延長保育運営費補助金は長時間保育運営費補助金に改められ、ともに前段を減額し、後段に必要見込み額を計上したものであります。

乳児保育奨励費補助金は、従来三人以上の零歳児を保育する場合にのみ補助対象になっておりましたが、今回の改正は、民間保育所におきましては措置数により乳児一人当たり月額三万九百五十円が補助されることになっております。

次に、長時間保育運営費補助金は、一日八時間を超えて保育する場合、保育の増員、労働条件の改善のために経費を補助するものであります。一時間五百三十三円で、一園最高六百時間までとなっております。

次に、予備保育設置補助金は、本年度改正により新たに該当す

ることとなったものでありますが、これは民間保育所において保母定数を超えて雇用した場合の人員費補助でございます。

また、障害児保育補助金は、障害者を保育している園に重度の障害児三万八千三百四十円、軽度については二万七千九百円の月額補助をするものであります。

最後の備品購入等設備費補助金であります。私立保育園の備品等設備改善を図るべく過去三年間補助してまいりましたが、おむね改善されたものと思われませんが、本年度もなお改善の必要があると認められましたので、追加計上し、補助しようとするものであります。

ページ二二の林道舗装工事請負費でございますが、今回の減額補正につきましては、当初百八十万円の予定で予算計上いたしました。実施設計により入札の結果、百五十四万円で事業が実施されましたので、差額の二十六万円を減額するものであります。

ページ二三、郷土美化植栽事業委託料の減額でございますが、この郷土美化植栽事業委託料は本年度四百九十二万円の見込みとなりますので、今回二百十八万円を減額しようとするものであります。減額の主な理由は花摘み園開設についての植栽委託料でございますが、五十六年春実施したフラワースライン沿い鳥久跡地の花摘み園を検討した結果、植栽、管理運営方法の改善を図ることといたしました。まず、花摘みの早期可能性すなわちビニールハウスの増。第二点として、花摘みの場を平砂浦熱帯植物園の中に移すこと。第三点、鳥久跡地は補助施設として残す。第四点、管理運営面は植物園がこれに当たる。こうした基本的な方向で検討いたしました結果、植栽を担当する植物園と協議を重ねました

結果、植栽事業委託料三百三十万円をもって委託契約の成立を見ることができました。これに伴い二百十八万円の予算執行残を生ずることになりましたので、今回減額しようとするものであります。

二三ページ道路維持補修工事材料費でございますが、これは市道等補修用砕石購入費二百万円でございます。当初予算において市道維持補修材料費として千六百万円を計上いたしました。今回補正予算として二百万円をお願いいたすわけでございます。これは圃場区域内で閉鎖された市道が区域内の幹線道路としてでき上り、住民の利用が始まりましたが、未舗装のため路面の損傷がはなはだしいので、これらの補修材料として砕石等を購入するものでございます。

次に、ページ二五、二六の過脂肪児検診委託料でございますがこれは市民の生涯健康教育の一環として昭和五十四年度から生徒児童の肥満対策を取り上げてまいりました。具体的な委託業務は館山市が安房医師会病院理事長に市内小中学校の過脂肪児の検診を委託いたしました。採血による血液検査、皮下脂肪の厚みの測定、血圧測定を行うものでございまして、委託料は一人当たり二千八百円でございます。今回の減額補正となりました小中学校費過脂肪児検診委託料、小学校二十一万八千円、中学校七万三千円は当初見込みました対象者、これは前年度実績に一割の伸びを見ただけでございますが、この対象者が中学では百九十六名、小学校四百四十名でございましたが、これが中学百七十名に、小学校三百六十名に減少したものでございます。なお、昭和五十六年度の過脂肪児出現率は小学校三百十八名で五・八四％、中学校百五

十六名で六・四四で、これらの値はいずれも昭和五十四年度以来低下の傾向が見られます。

二六ページの船形小学校校舎防音工事についてでございますが、これは第二期内装工事の実施単価の減でございます。第一期工事すなわち債務負担分でございますが、くい打ちに変更がございまして二百十九万七千三百五十五円の減額と、入札残の二十七万七千九百六十五円でございます。第二期内装工事で設計が昭和五十三年であった関係から防衛単価の入れかえを行ったわけでございます。当初予算で防衛施設庁の指示により一平方メートル単価八万三千円で積算をいたしましたところ、入れかえ単価にあまり伸びがなく六万八千円でございました。その差一万五千円で、面積が二千四百七十四平米でございますので、三千七百十四万二千円になりました。その合計が三千九百六十一万七千円でございます。

二七ページ博物館分館工事についてでございますが、館山市立博物館分館の建設工事請負費の減額理由につきまして申し上げますが、さきの六月定例市議会で工事請負契約の締結につきまして御審議、可決いただきましたように、一億七千七百五十万円をもって株式会社青木建設東京支店と契約を締結したことに伴う不要見込み四百万円を減額しようとするものでございます。この施設建設に伴う県補助金につきましては補助率が二分の一でございますので、二百万円を減額しようとするものでございます。

二七ページマラソン大会委託料でございますが、市民の体力づくり意識の高揚と観光休養都市の紹介を兼ねて今年から実施をいたしました若潮マラソン大会でございますが、第一回につきましては市が直接実施をしましたが、第二回の大会運営は館山市体育

協会に委託しまして開催することになっております。

第二回館山若潮マラソン委託についてでございますが、当初予算での委託料二百二十七万五千円は昨年十月の時点で作成したものでございまして、五百名規模のリハール大会として積算されたものでございました。その後第一回大会を正式大会として実施することになり、その予算を昭和五十五年十二月補正で百八十二万七千円、そして二月補正で二百二十九万八千円、合計四百十二万五千円で第一回の大会を終了いたしました。

今回の十二月補正額二百三十四万四千円は、今年第一回大会の実績を踏まえ大会規模、大会経費を積算したものでございます。参加予定者を当初五百名から千五百名に見込んでおり、参加料も千円から千五百円にアップしておりますが、現在鋭意参加者募集のキャンペーンを実施しているところでございます。来年三月十四日に開催する第二回大会の館山市体育協会に委託する経費の総額は四百六十一万九千円となるわけでございます。

以上、答弁を終わります。

○二〇番（石井武敏君） ただいまの御答弁でのおおむね理解はしましたが、なほ何点か説明を補足していただきたい部分がございますので、御質問申し上げます。

老人ホームの収容措置扶助費についてでございますが、これは御答弁によりまして養護老人ホーム、特別養護老人ホーム等、それから現在館山の真倉にある館山老人ホーム二つに分けて御説明がございましたが、この扶助費につきまして、扶助費の積算の仕方でございますが、これはたとえば館山と木更津と千葉というように、かなりの地域差が見込まれてくるんではないかというように

思います。そういう点からしまして、国の基準いわゆる都市部と過疎地帯と扶助費の差というのはどのように現在なっておりますか。これは収容人員の規模とかそういうものにも関係してくると思います。御説明願いたいと思います。

それから、特に館山老人ホームにつきまして、これは社会福祉法人となっております。経営されておるわけでございますが、この真倉にあるホームは非常に老朽化をしておるのが現状でございますが、関連質問としまして、相当老朽化したこのホームを建てかえる計画なり、御意思なりがどうかを明らかにしていただきたいと思います。

それから次に、乳児の保育奨励費の補助金でございますが、質疑を通して現在館山市内の乳幼児の保育状況を詳しく説明を加えていただきたいと思います。ゼロ歳未満の保育を必要としている者は現在何名掌握されておりますか、御質問いたします。

また、長時間保育の運営補助金につきまして、説明欄によりますと、パートの保育を雇用するに要する経費となっておりますがこの補助金の名称の変更や、金額の変更は了解いたしましたので現在この説明欄にありますパートの保育の場合の資格はどういう資格で判断して雇用するかを明らかにしていただきたいと思います。

また、次の点でございますが、過脂肪児につきましてでございますが、これは計数的に細かく御説明いただきまして、毎年昭和五十四年度から見ますと減少してきていると、要するに過脂肪児が体質改善できてきているという現状が数字的に示されましたが、当市の場合、全国的に見てこの過脂肪児の割合というのはどうい

うふうになっておりますでしょうか。お調べになりましてお答え願いたいと思います。過脂肪児は検診を行って、その結果、自然に対策が生じてくると思いますが、この対策についてももう一度御説明をたまわりたいと思います。

それから、博物館の工事請負費でございますが、これは特殊な建物であるので積算の仕方がむずかしいというように考えられますが、市で考えられたものと差額が大きいように思いますので、御質問したわけでございますが、この積算の仕方が、最初の積算が甘かったからこのようになったと私は理解しているんですが、そういう理解でよろしいでしょうか。御質問します。

また、現在のこの工事はどのように、どこまで進んでおりますか。またオープン時期等明確でございましたら、この際はっきりと発表していただきたいと思います。

それから、マラソン大会についてでございますが、これは今回は体育協会に委託するという事で御答弁があったわけでございますが、今大会を盛り上げる一つの手段として有名選手の招待とか、そういうものはここに入っておりますかどうか。

以上、質問します。

○市長（半澤良一君） 館山老人ホームの養護老人ホームの方の改築の件でございますが、これは財団法人館山老人ホームが経営をしておりますので、そちらの仕事でございますが、私が理事長という事でございますので、市長としてはなく、理事長の立場から考えを申し上げます。

従来、湊にございます特別養護老人ホームの中に未買収地がございます。その未買収地が買収できたら、そこに一緒に移して

昭和五十六年十二月議案

特別養護老人ホームと普通の養護老人ホームとを一緒にした方が運営上非常に望ましいということであつたわけでございます。しかし、その未買収地がなかなかいまままで買収できませんで今日までまいりましたが、先般地主との話がつきまして来年の八月三十日に買収すると、そういうことになりましたので、したがって、その買収後その土地を埋め立てをいたしましたして、五十八年度に改築をすべく現在検討中でございます。

○民生部長（鈴木 力君） 老人ホームの措置費の問題でございすけれども、措置費につきましては、いわゆる養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームそういうことで施設の種類によりまして、なお定数によりまして違うわけでございますが、措置費といましては一カ月当たりの生活費と、なお事務費につきまして、その合計額をもって措置費の算定をいたしております。したがって、御質問のようにいわゆる地域差によります措置費の差というものはございません。

それから、ゼロ歳児の対象者でございすが、今回乳児保育特別対策補助金といたしまして私立の保育園に補助いたします対象者は、ユネスコにおきまして延べ二十一人。

それから、私立の保育所におきまして延長保育するために保育の定数をオーバーいたしましたして保育を採用した場合のその保育の資格でございすが、これにつきましてはおおむね二年以上経験いたしましたパート保育等でございまして、正規の資格を有しなくとも、助手的な保育さんでも認められるということでございます。

○教育長（安田豊作君） 過脂肪児の出現率は全国的にどうかとい

うことですが、過脂肪児対策事業ということでやってるような事業はほかにないので、過脂肪児の統計はあるいはあるかもしれませんが、その資料手もとにありませんので、御了承いただきたいと思ひます。

過脂肪児の対策についてですが、過脂肪児の母親とか、医師会、学校保健会、教育委員会などで過脂肪児対策委員会をつくって夏のミニキャンプをやりました。それから過脂肪児解消教室で専門医との座談といひますが、一人一人の指導を受けるといひますが、それから水泳教室などを実施いたしました。

それから、博物館の減額は、積算が甘かつたんじゃないかといひ御指摘でございすが、確かにそういう見方もあるかもしれませんが、それでも、実際問題として当初便所を考えたんですが、それができないといひことで、それを省いたのがやはり大きな原因になつてゐるんじゃないかと思ひます。

それから、今後の目標でございすが、十二月二十三日に軀体の完了要するに三階の破風部分までコンクリートが打ち上がる。二月中旬までにかわらぶきが完了する。三月中旬に外壁の仕上げが完了して、三月十五日から二十五日の間に足場解体で完成といひ時期になります。こういふふうに見通して順調に進んでおります。

マラソン大会について、キャンペーンとして有名選手の招待といひことは考えたかといひことですが、考えました。二、三いろいろのルートを通して手続はとっておりますが、いまのところちょっと望み薄でございす。キャンペーンとしましては、後援団体の朝日新聞、日刊スポーツの紙上でのPRとか、マラソン雑

誌のランナーズ、旅の手帖等での大会PRとか、あるいは関東近県へのマラソングループへの招待、館山市に寮を持っている大学会社等に直接訪問して参加の依頼とか、日東交通へのポスター配布依頼PRとか、地元の若潮走友会七十三名おりますが、この結成、要項PR、安房郡市十一市町村の広報への依頼等あらゆる手を尽してPRしております。

○二〇番（石井武敏君） 老人ホームにつきまして、これは御答弁にもありましたけれども、社会福祉法人でやってるわけでございますが、当市がどういふふうに働きかけるかによってかなりの影響を持っているということで御質問したわけでございまして、御答弁によりまして未買収地があったけれども、それが買収できる予定に変わってきておるので、五十八年度には建てたいということで、ぜひその方向で進めていただきたいことを要望します。

御答弁の中で、改築という言葉で答弁が返ってきましたけれども、これは機能的に見ても新築ということになるのではないのでしょうか。特別養護老人ホームと館山老人ホームでは、その機能からいいますと、これはかなり違った角度の人たちが入ってきておるといふことでございますので、これは新築になるんだと思いますが、その点を確認したいと思います。

それから、博物館についてですが、実際にオープンになるのはいつになるんでしょうか。御質問いたします。

○市長（半澤良一君） 現在あります古い建物を取り壊して、場所は別のところに移りますけれども、新しく建てる。そういう意味で私は改築と申したんですけれども、考え方によっては新築と表現してもいいんだろうと思います。

それから、いまのところまだそういう段階で五十八年度の県の補助金をもらうべくこれからやるところでございますので、五十八年度にもらえるかどうか全然、いま運動を始めたばかりでございますので、見当はつきませんが、ただ、県の現在の第二次五カ年計画の中でも県南に養護老人ホームをつくるということがございますので、県の優先的に予算の配分といえますか、得られるものだというふうに考えております。

○教育長（安田豊作君） 博物館分館のオープンということで当初三月二十五日頃に建物ができますので、ツツジ祭りにもという話もありましたが、いろいろ専門家に聞いてみますと、コンクリートの乾かないうちはいろいろの物を入れるのは危険だということと御指導がありまして、最低半年は経なければいけないということとでございますので、いまのところ十一月初旬の文化の行事にあわせてやるのが適当じゃないかという、そういう見当をつけております。

○議長（林 豊君） 以上で、二〇番議員君の質疑を終わります。次、一番議員神田守隆君御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第六十一号補正予算について御質問申し上げます。質問の趣旨は議案の説明資料により説明をさせていただきます。

まず、一九ページの老人ホーム収容措置扶助費についてであります。いまの御質疑の中でおおむね了解をいたします。いささか違った点からこの際市長の御所見をお伺いしたいと思うわけですが、老人福祉の問題では施設福祉とともに重要なものが、最

近また特に叫ばれている問題が在宅福祉の充実であろうかと思ひます。当市においてもホームヘルパーの派遣あるいは寝たきり老人の入浴サービス、短期入所ホームなど、それなりに取り組みをされ、一歩一歩前進されているというふうに評価するところであります。先ほど来この福祉の充実というところで養護老人ホームの改築の問題が論議されましたけれども、今後の在宅福祉の充実という点ではどのようなテーマについて検討をされておるのか、この際お聞きしておきたいというふうに思うわけであります。

次に、乳児保育奨励費補助金についてであります。先ほど来質疑でおおむね了解いたしますので、省略をいたします。

次に、二〇ページの衛生費の中の臨時職員賃金百七十三万七千円の増額の問題であります。この点について御説明を願いたいと思うわけであります。九月の議会におきまして決算審査特別委員会の意見の中でも、正木処理場において恒常的な勤務状態の臨時職員がおるということについて、ポーンナスこうしたもののについての支給を検討すべきではないか、こうしたような意見が付されていたと思うわけであります。今回のこの処置はこれにこたえたものであるのかどうかという点をお聞かせ願いたいと思うわけであります。さらに、もしそうだとすれば、どのような条件でそれを払っているのか、御説明をいただきたいと思うわけであります。そしてこうしたポーンナスの支給の対象になる職員はこの課に、どういふ所屬にどれほどおったのかということについての御説明をあわせお願ひしたいと思うわけであります。

二二ページの土木費道路維持補修工事材料費についてであります。先ほど来質疑の中で、道路の砂利敷きなど、特に幹線農

道についての補修こういうような点から大きな補正が必要なんだ。こういうようなお話だったんですが、道路の砂利敷きなどについて公道について行ひのはこれは当然だろうと思うんですが、同時に私道といえども多くの人に利用され、準公道と見なせるような道路の使われ方、利用状況によっては市としてもそれなりの補助なりすべきだと思ひわけあります。この辺についての御見解をお聞かせ願ひたいと思ひわけあります。

昨今、この私道の問題が大変いわゆるミニ開発をめぐる問題の中で耳にするわけであります。現在宅地等開発指導要綱を当市において持っているわけですが、〇・三ヘクタール以上の造成にならないとこの規制の対象にならぬという問題もあるわけがあります。特にこうした新造成地の道路の舗装の問題や、排水の完備の問題は、業者の責任を明確にしてその整備を図らせるべきである。また市もそう指導するべきだと思ひます。現在の指導要綱の〇・三ヘクタール以上というのは、いわゆるミニ開発の問題には対抗できないということで大変問題があるかと思ひます。都市計画法では、市長が開発行為に勧告できるのは〇・一ヘクタール以上ということを示しているわけですが、指導要綱の〇・三ヘクタールという問題は当然見直すべき問題じゃなからうかと思ひんですが、この際この点についての御所見をあわせお聞かせ願ひたいと思ひわけあります。

二五ページの教育費の問題であります。西岬地区通学用道路新設工事請負費ということで道路工事の請負費及び用地の取得というような問題が出てきておるわけですが、通常道路の建設という問題は土木費として計上されるというふうに理解をするわ

けてありますが、この予算の執行は教育委員会で、教育費ということですから、教育委員会でその執行に責任を持つんだという意味で、こうした教育費として予算が計上された。こういうことなのかどうか、お聞かせ願いたいと思うわけです。

道路は、私は統合の是非にかかわりなく必要だというふうに思うわけですが、この辺について、統合がなければつくらないんだと、こういう見解なのかどうか、あわせ確認を願いたいと思うわけがあります。

幅員八メートルの道路をつくるということですが、学校から県道までの現在ある道路ですね。この道路は幅員が何メートルであるのか。この道路については幅員の拡張という問題についての必要はないのかどうか。これはさらに現在国鉄バスが通学の便のためということでは学校の前の道路に入ってくるという、こういうような説明があるわけですが、現在の幅員の道路で国鉄のバスがワンマンでこれが可能だということなのかどうか。現在西岬の西部地区に行く国鉄バスですが、この西部地区に行くバスは二人乗務となっていてあるわけがあります。現在の西部地区に行く道路の幅員は何メートルなのか。またなぜ国鉄バスは二人乗務となっているのか承知しているかどうか、お聞かせ願いたいと思うわけがあります。次に、就学扶助費についてであります。これは小学校、中学校とも増額がされているわけですが、援助対象児童の把握改善を検討するというようなことで九月の議会等で答弁があったわけですが、こうした具体的な改善がされて把握が的確に行われているのかどうか。そうしたことの結果としての増額の要求なのかどうか、お聞かせ願いたいと思うわけがあります。

それから、この就学援助の対象児童の中には児童扶養手当の支給をしているということが、そういう母子に対して就学援助費が支給されるというふうに思うわけですが、この児童扶養手当の新規審査事務が、県の責任で行うわけですが、これが七月からストップしているということについて承知しているかどうか。すでに五カ月も宙ぶらりんの状態におかれているという問題は、大変ゆゆしき問題だろうと思うわけで、就学援助の支給というような問題にも大変直接にかかわりを持っている問題であるだけに、この辺の問題をきちんと把握しているのかどうか、お聞かせを願いたいと思うわけがあります。

以上、答弁によりまして、再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 民生費老人ホームの収容措置扶助費に関連しての御質問でございますが、在宅老人福祉についてどんな考え方を持っているかということでございますが、これは実はいま実態を調査してみようと、そうしてその実態調査の上でヘルパーの派遣を考えよう。現在は非課税の方々までのヘルパーの派遣でございますが、ある程度の所得があってもヘルパーを派遣していいんじゃないか。それについては有料ということでやってもいいんじゃないか。それにしても実態調査をしてみようということで民生部において調査をさせております。

それから、第二点の衛生費の臨時職員賃金に関連してでございますが、これは主なものは職員の中に長期療養者が出ましたのでその欠員を補充するために臨時職員賃金を計上したことでございますが、ボーナス的な特別割り増し賃金の支給も考えております。

て、この中には単価四千六百円で七人、十日分三十二万二千元になりましょいか、それが計上してございます。これの支給方法につきましては五十日以上勤務とか、あるいは百日以上勤務とかそういうような条件をつけておりますが、この計算の基礎は七人十日分、四千六百円ということで計上しております。

道路の維持補修の件でございしますが、道路の維持につきましては前々申し上げておりますとおり、まずやはり市道を優先すべきでありまして、私道あるいは里道等はその利用の実情に応じてひとつ考えたいというふうに考えてやってきているわけでございます。今後その方針でやっていきたいと思っております。

それから、宅地開発業者に対する責任の問題でございしますが、その件につきましては御指摘もいただきましたので、検討をいたしてみたいと思います。

それから、西岬の通学道路の新設工事これは教育費なのかどうかという御質問でございしますが、これは統合の条件としてこの道路をつくるわけでございまして、統合がなければまあ必要のない道路でございしますので、統合からんで建設するものでございしますので、教育費に計上したものでございます。

それから、この道路は市道見物小沼線のポビーランド入り口近くから公民館裏までが幅八メートル、長さ四百メートル。それから校門の前になりますけれども、校門の前から旧県道に至ります市道の見物五号線でございしますが、これは拡幅はいたしませんで、現状のまま側溝のかさ上げとふたかけをするということでございまして、ただその間に待避所をつくるということでございます。さらにそこから、旧県道から現在の海岸道路までは、や

はり幅八メートル、長さ九十七メートルの道路を建設しようというところでございます。

それから、この道路の建設につきましては、いずれも国鉄バスの館山営業所と十分連絡をとりまして、現場を見てもらってそして設計をいたすわけでございまして、将来ワンマンバスでも通行が可能な道路ということで考えているわけでございます。

それから、西岬の西の方の線について幅員何メートルかということにつきまして、私十分詳しいことは承知しておりませんけれども、大変幅の狭いところがございますが、ワンマンバスが運行できないというようなことも聞いておりますが、また待避所等の建設についていろいろ御要望が出ておりますので、これは将来の問題として徐々に解決して便宜を図っていきたいというふうに考えております。

それから、就学扶助費に関連しての御質問でございしますが、これは今回小学校費で七十一万四千円、中学校費で八十四万三千円を増額をお願いしたわけでございますが、いずれもこの主な理由は給食費の単価の増でございまして、それに受給児童生徒数がふえたわけでございますが、この受給児童生徒数がふえたことは、従来どおりやはり民生委員、学校長、その他の方々と十分相談をしながらやってまいったわけで、いままでも的確な人数の把握に努めてまいりましたし、今回特にいままでのやり方を直して、あるいは反省して申しますか、特に熱心にやったということではございません。従来も熱心にやってまいりましたし、今回も熱心にやっておりますのでございます。

それから、児童扶養手当の支給が県でストップされているとい

うことでございますが、これについては承知をいたしておりましたので、早速調べてみたいと思います。

○一番（神田守隆君） 在宅老人福祉の問題では、ヘルパーの派遣等検討するということですから、ぜひそうした検討を進めていただきたいと思います。

やっぱり、老人福祉の中でもこうした家庭に老人を抱えている世帯は大変多いわけであります。そういう中で、この問題をめぐって家庭が崩壊するというような話もありますし、また老人の一人世帯これも大変いま増加するというようなこともあるわけで、ぜひともいままでの所得の低い方というような限定ではなくて、すべての老人を対象にしてヘルパーの派遣をぜひ考えていただきたい。その際費用の負担をどうするのかという問題はあろうかと思いますが、これはその中で当然考えなければならぬ問題だろうというふうに思います。

それから、臨時職員のボーナスということで支給がされるようになったということで、大変それ自身としては評価すべきことだろうということでありますけれども、予算の問題もありまして、さらにこれの適用対象をどういうふうに見るのかという問題もあるかと思うんですが、今後ともそうした問題についての十分な意をはらっていただきたい。特に現場で働く職員の方々、私も正木の処理場の職員の方を見えていますけれども、全く市の職員と同じような勤務を続けておられて、その中で待遇の上ではこういういろいろの問題で低い条件にあるということですから、これまでも何とかしなければならぬと思っていたわけで、そういう点では市の一定の是正の点で評価したいと思います。今後ともこう

いう問題について前進的な配慮を願いたいと思うわけです。

それから、道路の問題についての、もちろん市道を優先すべきだという点では、公道を優先するべきだということでは、私もその限りでは当然賛成でありますけれども、同時に利用の実態に即して考えていただきたい。ともすると、利用の実態から見れば非常に公道以上に使われる私道も場合によってはあるわけで、そうした点では利用の実情に応じて積極的に助成、補助、バラスを支給するとか、そうしたことに意を用いていただきたい。

指導要綱については検討するということですから、ぜひ検討していただきたい。

それから、教育費の問題で、私は市長の考え方で納得できないという問題があるわけです。それは現在の道路の問題については将来ワンマンバスでも入れるというようなことで設計を依頼しておるといふことですが、これは考え方が逆ではないかというふうに思うわけです。というのはこれは通学路ですから、しかも小学校一年、統合の問題で問題になっているのは小学校を統合しようということですから、小学校一年生がバスに乗るわけです。いまの原案で考えられていることは、バスが行って便利になりますよということ、通学が可能ですよという話ではそういうこともあると思うんですけれども、子供の安全というところで危なくないですか。ワンマンバスが入る。子供がバスに乗り降りする。小学校一年生です。そういう点では、ワンマンバスが入れるようなという発想はむしろ大変危険な発想だという点を指摘したいと思うんです。

それともう一点は、大変当局の考え方は甘いんじゃないだろうか

と思うんですけども、国鉄がワンマンが将来入れるというようなことでありますけれども、現実には国鉄の乗務員の労働条件にかかわる問題ということで、大変その問題がスムーズに論議されるかどうかということ自身わからぬ問題であります。したがって、ワンマンバスでも入れるというようにことを言っておりますが、むしろそのことは問題なんだという点を指摘したいと思いますが、この点についてどういふふうにお考えであるか、お答え願います。

○教育長（安田豊作君） ワンマンバスは小学校の一年生には危険なんだと、そう決められると、そうかなとも考えられますけれども、六歳以上というのはもう交通法規の上でも一人歩きが許されておりますし、そうしたバスに乗り降りすることは十分その前に指導して、危険のないような指導はもちろん遺漏なくするつもりでございます。

それから、ワンマンバスの入れないような道をつくれればバスは入らないというんです。そういうことで、何としてもワンマンバスに入る、とりあえずはツーマンのバスを通わせるということですので、漸次危険のないような過程を通して生徒の指導もするし、国鉄バスの方の労働関係の問題もありますが、いろいろ話し合いで進めたい。こういうふうに考えております。

○一番（神田守隆君） この問題で、市としては私は子供たちの安全という問題から見た場合には、道路の幅員をどうする、こうするという問題もありますけれども、安全の問題という点から見た場合には、ツーマンとワンマンという問題では、むしろ市としてはツーマンとしてくださいということ国鉄にかけありというふうな

ら、見方としてはあろうかと思うんですが、その辺についてワンマンでもいいという考え方なのか、その辺を確認しておきたいと思えます。

○教育長（安田豊作君） この問題はずっと国鉄の方と話し合ってきました。ですから、ツーマンでやってももらえればその方が道をつくるにも簡単ですし、安全という点も気持の上では、でしたから、これは二年前ですか、前まではそういうことでツーマンが通っていますから、ツーマンということで話し合ったんですが、いまはもう国鉄の方としてワンマン以外には考えないと、こういう体制ですので、それに応じた安全な方法をとという考え方に変わりました。

○議長（林 豊君） 以上で、一番議員君の質疑を終わります。

以上で、通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑はございませんか。

○二九番（安西益男君） 若干お聞かせいただきます。

一五ページ十三節の委託料これはコミュニティ施設建設工事設計委託料というところでございまして、この説明資料の方には、この中で北条地区学習等供用施設ということがうたわれておりますが、これは今回初めて聞くというふうに思いますが、この内容についてお聞かせいただきたい。

それから、二〇ページの十九節負担金補助及び交付金これは出野尾の衛生センターに関連して施設されておるということであると思いますが、これは完成したかどうか。この減額は入札の減というところでございますが、これもひとつ状況をお聞かせいただきたい。

続きまして、二四ページ十七節並びに十九節、十七節は城山公園用地購入費、説明資料にありますけれども、計画どおり進めていけるかどうか。これだけ減額がありますから。

さらに、十九節同じく館山運動公園の整備事業は予定どおり完成されるかどうか。この点もお聞かせいただきたい。

それから、二五ページ十五節になりますが工事請負費、館山小学校床の張りかえ工事この内容について御説明いただきたい。

よろしく願います。

○市長公室長補佐（川上義雄君） ただいまの北条地区学習等供用施設の関係でございますが、コミュニティセンターを建設するにあたりまして、今回中央公民館、それから学習等供用施設、勤労青少年ホーム、保健センターの建設を同一の建物の中の複合施設として考えたわけですが、防衛庁の公民館の補助は全部で一千平米しか補助対象にならない、打ち切りになるわけです。したがって、この一千平米を超える部分については市の単独になるわけです。この中央公民館としましては、一千平米としては非常に狭いものになるわけです。社会教育団体等の要望でもっと大きいものをという要望がある中でいろいろ検討した結果、防衛庁の補助金の中で学習等供用施設ならば補助対象になり、この施設は一般住民の学習、保育、休養、集会の用に供するための施設と定義づけられております。この目的に従って各室をレイアウトした場合に、公民館の学習活動を行う上で全く支障がない。支障がありませんので、補助金の効率的確保の面から北条地区学習等供用施設ということで防衛庁から補助をいただき、実際の運用面では公民館北条分館としての活動の場としていく考えてございます。

○水道課長（庄司利光君） 二〇ページの十九節の負担金補助及び交付金の三百二十五万一千円の減額でございますが、これにつきましては御指摘のとおり出野尾地区と西長田地区の給水工事を六月の追加予算で実施したわけでございますが、このうち加入金の一戸当たり六万円についての五百四万円につきましては、追加でお願いした額そのものでございます。あとの六月に補正しました給水工事の入札によります減額が三百二十五万一千円ということでございます、いわゆる入札差額でございます。

○経済部長（山田俊康君） 城山公園の用地購入費の関係でございますけれども、当初計画いたしました公園用地購入費一億六千万ということと計画いたしました、国、県にそれぞれ補助要請等を行っていたわけでございますけれども、五十六年事業として現実には一億六千八百五十万円ほどということと内示を受けておりますので、今回当初予算に計上お願いいたしました金額との差額を補正でお願いした次第でございます。

あわせて、館山運動公園整備事業負担金につきましても、国の一般公共が二億四千万、県の単独事業が七千万ということに当初予定よりも減額になりましたため、その負担金分を減額でお願いした次第でございます。

○教育長（安田豊作君） 館山小学校床張りかえ工事請負費でございますが、これは一年生の教室六教室ありますが、そのうち約四五教室の床板が、フローリングブロックを使っておりますが、はがれましたので張りかえをしたい。その原因は、申しわけないことでございますけれども、こういうことでございます。

この学校は、四十八年から三年かかってできた学校で、まだ新

しいのでございますが、五十六年の九月九日の夜、十日の朝になってわかつたわけでございますけれども、廊下にある流しのコックが一つ開けっ放しになっておった。これは一年生の教室でございまして、子供が帰るときに水を飲むとして全開にしたんだけれども、出ないんであきらめてそのまま帰っちゃった。それが夜中になって水が出始めたと、こういうことで約五教室が水びたしになった。フローリングブロックはのりづけでございまして、のりが全部はがれちゃったということで、現在まで直しましたけれども、ここにきて寒いからそのまま捨て置くこともいけないのでお願いして張りかえよう。こういう予算でございします。

○二九番（安西益男君） 委託料の内容をいま聞きました。当初の計画、名目といいますが、そういったものは補助金対象のために変更されたというふうに理解していいのか、活動の内容は同じかどうか。

それから、城山と運動公園ですが、減額はわかっておるんです。計画どおり進んでいけるかどうか。運動公園も計画どおりに完成が期待できるのかどうか。その点をひとつはっきりさせていたきたい。

それから、学校のことですが、私大変不勉強で、廊下の上におさわさ敷いてあるんですね。のりづけをしたということですが、そのことで、例をとりますと、西岬中学校の廊下に真ん中に敷いてありますね、両端が空いてるわけです。実際の問題としてあの幅しか使えないと思うんです。真ん中に敷物を敷いてありますから、非常に入梅そのうときにはびっしょりになっております。生徒はころぶし、大人もころんだということもあります。非常に

危険が多いというふうに思います。これは西岬ばかりでなく何か所かそういった学校があるように思う。実際にその幅しか使えない。せつかくの幅が。これは検討したいと思うんです。実際滑るんですね。二階に上るときなんか、相当湿っておりまして滑ったという例が相当ありますので、これは検討していただきたい。それからごく最近でございました館野でしたか、下が板になっておりまして滑らない。木製のものであつたふうにすればいいのではないかと思います。館山ばかりでなく、ほかの学校でも危険性がある。非常に滑るということだと思うように歩けないんでないかというようなことがありますので、そういったことを聞いておりますので、学校の方も検討願いたいというふうに思います。その点、よろしく願いたいします。これは強く要望いたします。

○市長公室長補佐（川上義雄君） 学習等供用施設の關係でございしますが、先ほど申し上げましたように防衛庁の補助金ですともう五百平米、金額にしまして七千二十万学習等供用施設で補助金ももらえるわけです。したがしまして、補助金の効率的確保の面から北条地区学習等供用施設ということで補助金をいただくわけですが、これは全く公民館として使うということではなくて、北条地区学習等供用施設と、それと公民館北条分館という形の中で共用として使っていきたいと考えております。

○経済部長（山田俊康君） 城山公園の關係でございしますけれども、国の補助金、県の補助金等をいたしながら用地買収を現在進めているわけです。市の要望します額、県も当初予算積算の段階ではその程度要求してみなというようなことから要求したわけですが、現実問題としては五十六年度におきまして今回補正で

お願いいたしましたような状況になっているわけでございます。今後とも国の補助金あるいは県の補助金等を強力に要望しながら進めてまいりたい。このように考えています。

館山運動公園につきましては、五十七年度幹線苑路と仮舗装を完了するんだ。そして苑路に埋設すべく給排水、電気等をやって五十七年度末にはテニス、バレーコートの一部を供用を開始したいということで現在進めております。いままでは実施いたした事業実績といたしましては八億一千万ほど実施しております。

○二九番（安西益男君） 北条地区だけ、ほかは使っちゃいけないということではないわけですね。

それから、城山と運動公園ですけれども、御説明わかりました。予定どおり期間にできるのかどうかということ、多少遅れるのかどうかということ。その点をお聞かせ願いたいと思います。

○市長公室長補佐（川上義雄君） 今回のコミュニティセンターにつきましては中央公民館、それからいまの学習等供用施設、それから中小企業に働く青少年の憩いの場であります。勤労青少年ホーム、それから市民の健康管理の場であります。保健センターを同じ建物の中に設置する複合施設になるわけでございます。したがって、それぞれの目的に従った利用と相互交流による効率的な利用を図ってまいりたいと考えております。したがって、北条地区学習等供用施設に來た方でも、勤労青少年ホームの室を使うという場合もありますし、だれが使ってもいいということになります。

○経済部長（山田俊康君） 城山公園の関係でございますけれども当初計画では五十九年までということで計画をしております。先

ほどちょっと申し上げましたように国庫補助、県費補助等の動向によって多少延びるんではないだろうか、このように考えております。

運動公園につきましても、当初計画では五十九年度ということでございましたけれども、五十六年の累計で約七六〇という、六年で七六〇ですから、これも多少遅れるかもしれません。

○二三番（菊井敏博君） コミュニティセンターについても少し、私どもには大きい問題ですから、もう少し親切に教えていただく必要はないものか。執行部だけでどんどん進んでいいものか。これを見て非常に疑念に思っているんですけども、コミュニティセンターに対してどのぐらいウエートを置いているか、重要性を置いているかどうか。お聞かせ願いたいと思うんですが、またこういう形の中を至急に補正の中でこういうものをやらなければならなかった説明をひとつお願いします。

○市長（半澤良一君） コミュニティセンターにつきましては今回設計委託料ということでお願いをいたしましたわけでございますが、今回御承認をいただければ来年度十月末までに埋め立て工事が終わり、その後で五十七、五十八二年度にわたって建設をいたしたいということ、そのためにいまから十分な設計をしておく必要がある。ゆっくり時間をかけて十分いい設計をしたいというふうに考えているわけでございます。そのために今回、と同時にまた防衛庁の方からの補助も今年度決まりましたので、今年度中に設計をいたしたい。そういうことで設計委託料をお願いいたします。

そんなに急ぐことかどうかということになりますが、前々全員

協議会等で御説明を申し上げましたとおり、コミュニティセンターを、複合施設をつくるということで御説明を申し上げてきたところでございますので、その実行の一段階ということで今回お願いするわけでございます。そういうことで、今回の防衛庁の補助金等も決まったことでございますので、そういう意味では大変急ぐということになります。施設そのものが一体急ぐのかということになりますと、大変いろいろ考え方の相違が出てくるわけでございます。私といたしましては、一応市の施策の中で必要であるというふうに考えてこれを計画して実行に移しているわけでございます。現在やっております、あるいはこれからしようとする施策は、どれが大事で、どれが大事でないということはございまして、一応必要なものというふうな理解をして進めているわけでございます。

○二三番（菊井敏博君） 全員協議会等でいろいろ説明してもらったとおりの形のものできておれば問題はないけれども、いろいろ変更等が出るわけですよ。われわれとしてはいまの市民センターと、このコミュニティの形のものでどのようにつながっていくのかいろいろお聞きしたいこともいっぱいあるわけですよ。そういう中で、議会外にこういう形のもので書類が流れて、議会が全然わからない。何かつんぼさじきに置かれてあるみたいで納得できない。市長さんの考え方として教育委員会とか、教育関係者の方が優先されて、議会というのはこういう関係については二の次なんです。当然の順位づけというところとおかしいんですが、そういう点もあわせて市長さんにもう一回聞きたいと思えます。

○市長（半澤良一君） ただいま、御質問の中でも触れましたた

ように公民館、学習等供用施設、保健センター、勤労青少年ホームと四つのものを複合させた建物でございますので、それぞれの利用目的に従ってそれぞれの関係団体がございまして、それらの方々の御意見を聞きながら使いたいものをつくりたい。そういう考え方でそれぞれの関係団体の方々の御要望を取り入れる。そういう意味でいろいろ御相談申し上げ、そういう過程の中でそうした書類が流れていったと思いますけれども、特にそうした方々の御意見を取り入れながら建設を進めていきたいということで進めてきているわけでございます。そうしたものを総合した上で議会の中で御審議をいただいで、御承認いただきたい。そういうふうに考えているわけでございます。

○二三番（菊井敏博君） 大体そうだと思うんですが、そういう形の中でいろんな意見が出て決まった形の中で設計委託料を計上する、その段階で、最終的に設計委託にわたる段階がこうだという形の中で教えてもらってもよかったんではないかと思うんですが、ひとついろんな点で、議会の皆さんも考えている方もあるでしょうから、これ以上は言いませんが、もう少し大きい問題は親切に教えてもらいたいということを要望いたします。

○一九番（石井輝久君） 議案第六十一号館山市一般会計補正予算でございますが、その中の歳入のうち一ページでございますが、二項五目総務費国庫補助金一節五百三十七万六千円、これは要するにこれに対応する歳出一五ページ、先ほど二九番議員から質問がありました。歳出で二款一項十目八億三千二百六十四万三千元を二千三百五十六万七千円追加補正する。こういう内容でございますが、この金額で七千円という端数がございしますが、その積

算の根拠をお示し願いたいと存じます。これが一点。

引き続きまして、第二点といたしまして、一般財源千八百十九万一千円、これまた一千円というきわめて細かい端数が出ておりますが、同様にこの積算の根拠をお示し願いたいと存じます。

引き続きまして、三点目といたしまして、この議案は先ほど審議した議案五十七号との関連もございしますが、要するに五十七号議案は三万九百六十平方メートルの土地を造成し、そこに将来コミュニティ施設を建設しようとするものでございまして、けれども、この施設の概要、ただいま市長から御説明がありましたけれども、やや詳細な説明を求めます。

この案についての事実関係につきましては、過去質疑が何回か当議会でも交わされておりまして、その推移のあらましにつきましては承知しておりますが、まず当初のリージョンブラザ構想を推し進めるにあたりまして、安房郡内の市町村長の同意を必要としたと、そのときに館山市は関連の安房郡内の市町村長の同意を求めたのでございますけれども、鴨川の市長から同意が得られなかったというようにお耳にしておるんでございますが、その事実関係の有無につきましてお答えを願いたいと存じます。

次に、四番目といたしまして、リージョンブラザ構想、いずれにいたしましても、これはなくなつて雲散霧消してしまつた。そこで全く別の構想に立つて、要するにリターンして一べん戻つてまた出直し、出直した結果が今回のコミュニティの構想になつたようですが、これだけの端数まで一千円とか、七千円の端数まで計上して、ある積算に基づいて計上されたんでしょりが、そこまですべて詳細な検討を重ねておられるんですから、将来構想としてどの

程度の予算規模で構想を進めておられるのか、その規模をお伺いしたいと存じます。

次に、五番目といたしまして、リージョンブラザ構想をもって進んだ場合の財源内訳、政府補助金あるいは公庫融資あるいは例の大蔵省の運用部資金等々の財源内訳で、どの程度の補助金あるいは政府資金の引き当てを予定していたかその金額。リージョンブラザ構想の場合どういふ資金を当て込んでいたか、お答えを願いたいと思います。またその場合の利率はどの程度で計画を推し進められたのか、それから償還期限はどの程度で構想を練つてこられたのか、お聞かせを願いたいと存じます。

次に、六番目といたしまして、これは同様な質問になりますけれども、今回考へておられるいわゆるコミュニティ施設の構想を進めるにあつたの財源内訳をお示し願いたいと存じます。またその起債の認可見込み額をお示し願いたいと存じます。

さらに、第七点目といたしまして、この議案は、これから建築の本設計を委託しようとする今回提案でございしますけれども、設計といいましても、ほんと投げ出して設計を委託するのではなくて、これこれの建物、これこれの目的の建物をこの程度でつくりたいから設計してくださいという設計の委託だろうと思います。したがういまして、そのお考へた構想の概要をお示し願いたいと存じます。つまり何階建てか、建物はどういふふうになっているのか、面積、階数それからその内容の概要をお示しただきたいと存じます。

それから、先ほど市長から二三番議員の御質問に対する答弁で五十八年、九年という年次をお示しになりましたけれども、その

構想実現までの年次計画をお示しいたしたいと存じます。つまり中央公民館あるいは北条地区学習等供用施設それから保健関係勤労青少年の関係、文化ホールこれらに関する完成に至るまでの年次計画を具体的に示しを願いたいと存じます。これが八番目。それから、九番目の質問といたしまして、この設計を委託するにあたりまして、この委託の方法はどのようにしようとするものか、お考えをお示しをいたしたいと存じます。可決した場合にどういう方法で設計委託をされるのか、その方法について伺います。

十番目といたしまして、現況におきましてはあの一帯は雨が降ったら吸い込んでしまいう水田ですから、多少流れていく。そういった現況でございますけれども、現況で排水の障害が起こるようには見受けられませんけれども、五十七号議案でございますが、あそこを造成してしまつて将来舗装するなりした場合には、当然雨水の排水ということが起こると思います。雨水の排水量はどのくらいと踏んでおられるのか、雨水の見込み排水量について伺います。同時に、あそこに建物、施設ができた場合には建物そのものから、たとえば冷暖房にしても水を使います。しょっちゅう流れます。相当の水量になると思いますが、それらの雑排水の量はどのくらい見込んでおられるのか、伺います。

それから、十一番目でございますが、排水計画について、いまの質問はもっぱら水量でございますけれども、全体の排水計画について説明を求めます。一部は境川に落ち排水計画であることは承知しております。そうとしても、市長さんの自宅の横に流れている水路と蛭子神社のところで境川は合流いたします。合流点の

水量が当然増加いたします。常時増加いたします。この常時合流点で水量が増加しているそこに異常増水、異常増水時というのは主として大雨が降ってに起因する異常増水、そのときに完全に合流点で排水できずに溢水、水があふれてしまふ。そういった危険はないものかどうかを伺います。同時に、そういった全体排水計画、あの周辺の全体排水計画を考慮した将来計画、水があふれる、溢水対策の将来計画の構想があったら、お示し願いたい。

以上、質問を終わります。

○議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午後三時三十七分 休憩

午後四時 二分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を願います。

○市長公室長補佐（川上義雄君） 答えいたします。

まず最初に、一ページの歳入の関係でございますが、防衛施設周辺整備補助金五百三十七万六千円の追加でございますが、これは防衛庁の補助金で中央公民館の補助金は総額一億二千六百六十万、それから北条地区学習等供用施設で七千二十万でございますが、今回の分は設計費にかかわる分として今回防衛庁の方から内示があった額でございます。端数があるということでございますが、防衛庁の方で防衛庁長官が定める設計補助要綱に定める係数を総体の補助金の額に掛けてありますので、この端数が出ております。

次に、一五ページの歳出の関係でございますが、まず二千三百五十六万七千円の追加でございますが、今回設計委託をしますの

は文化ホールを除いた四施設でございます。一応今回コミュニケーションセンターの平面プランにつきまして市サイドで検討しているところでございます、いろいろと面積でその段階で変わりますが、一応面積を三千六百平米とらえまして、その工事費で設計料を算出しております。その額が二百九十一万二千元、それからこのほかに地質調査費として百六十五万五千円を見込んでおります。合計しまして二千三百五十六万七千円でございます。

それから、八億三千二百六十四万三千円の補正前の額ですが、これは当初予算から九月補正、それから十月補正がありまして、現在予算現計が八億三千二百六十四万三千円になっております。

それから、一般財源の千八百十九万一千円ですが、これは今回の委託料の補正額二千三百五十六万七千円のうち国庫補助金が五百三十七万六千円でございますので、これを差し引いた額が一般財源ということで千八百十九万一千円計上されております。

それから、三番目のリージョンプラザ構想を進める中で、鴨川市長がこれに同意したかどうかということでございますが、同意しなかった事実があると聞いているが、その事実有無についてということでございますが、そういうような事実はありません。鴨川市長も承認をいただいております。

それから、四番目のリージョンプラザ構想の将来の関係でございますが、これもいろいろ現在検討中でございます、面積がその都度変わって申しわけないんですが、一応現在予定しておりますのが文化ホールを除きましての四施設で、面積は三千六百七十六・九二、それからその工事費として七億七千五百五十八千円、国、県補助金で二億九千五百九十二万二千元、起債で二億六千二

百五十万円、残り一般財源で二億一千六百六十三万六千円、現在のところこのようになっておりますが、この平面プランは常に検討しておりますので、今後この数字は動いてくるかと思っております。

それから、五番目のリージョンプラザの場合の財源の関係ですが、リージョンプラザの場合の国庫補助金としまして、計画策定費で千八百万、それから建物の補助金で二億五千万、合わせまして二億六千八百万の補助です。その場合の起債の関係でございますが、これは銀行縁故資金がいたしまして政府資金よりちょっと利率が高くなります。利率は八・一％、起債総額としまして十二億五千万を当時見込みました。それから償還の年限ですが、銀行縁故債の場合は十年でございます。

リージョンプラザでない場合の財源の関係でございますが、中央公民館の場合は三億五千六百四十四万二千元、これに対します補助金が一億二千六百六十万、起債八千二百四十万。北条地区学供施設ですが、事業費は一億三千六百八十八万九千円、補助金で七千二十万、起債で四千八百四十万。保健センターでございますが、事業費で一億二千六百十五万四千円、補助金で千七百万円、起債で七千九百十万円。勤労青少年ホームで事業費で一億二千三百九十五万円、補助金六千万円、起債で四千五百二十万円でございます。それから当時は文化ホールにつきましても計画しておりましたので、その文化ホールが八億八千七百七十五万七千円、補助金で一億三千六百万、起債で二億五千三百七十万。文化ホールと四施設合わせまして合計で十六億三千百十九万二千元、補助金で四億九百八十万円、起債で五億八百八十万円。以上でございます。

次に、七番目の今後のプランでございますが、先ほどから申し上げましたとおり、面積が今後も動くと思いますが、一応現在市で平面プランを作成した中で面積を申し上げます。中央公民館千三百五十二・二二平米、北条地区学習等供用施設六百六十一・五二平米、保健センター七百十二・一六平米、勤労青少年ホーム九百五十一・〇二平米、合計しまして三千六百七十六・九二平米でございます。

その内容ということでございますが、構造でございますが、地下一階地上三階建てでございます。

それから、八番目の年次計画でございますが、中央公民館等の四施設これが五十七、五十八年度の二カ年を予定しております。それから文化ホールにつきましては今後財源との調整を図りながら計画してまいりたいと考えております。

次に、九番目の設計を委託するにあたって、その設計委託の方法でございますが、従来から建物の設計につきましては随意契約で契約しておりますので、今回も随意契約ということにしたいと考えております。

それから、十番目のコミュニティセンター内の雨水、雑排水の関係ですが、雨水につきましては毎秒〇・八〇六一立米、雑排水は毎秒〇・〇〇二六立米、合計しまして毎秒〇・八〇八七、約毎秒〇・八トンの水が排出されるということで想定して排水管の計算がされております。

以上でございます。

○経済部長（山田俊康君） 十一番目の境川の合流点、水量増加による異常増水時の完全な排水ということでございますけれども、

昭和五十七年度事業として合流点の蛭ヶ島橋のかけかえを検討しております。橋を大きくしまして両方からの水の流れをよくするように改良しようという計画であります。

それから、その対策ということで将来計画としてはどんな構想があるかということでございますけれども、昨日市長から石井武敏議員にお答えいたしましたように、下水道整備の基本計画策定について検討中でございますので、それとあわせて当然考えてまいりたいというふうに考えております。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

第一点の質問でございますが、館山市議会会議規則というのがございまして、第五十三条の三項の規定によりまして「議員は、質疑にあたっては、自己の意見を述べるべきでない」としてありますので、意見を述べることを避けながら再質問に入ります。

そこで、ただいま質問の第一点で御説明いただきました、なるほど五百三十七万六千円、係数を乗じて積算した額が五百三十七万六千円、したがって、係数を乗じたから六千円という端数が出てあたりまえというような御答弁でございますが、私は積算の根拠を示してもらいたいということは、係数がどのぐらいだということを知りたいでございます。一千円とか、七千円というのは普通概算の場合にはあり得ないんですよ。第一予算書作成だってそうです。千円単位で、一千円なんていうのは普通ないんですよ。繰り上げ、繰り下げあるいは切り捨てで、決算は違いますが、予算では大体そうなっております。一千円だの、七千円は実に不思議に感ずる。そこでお伺いしたわけです。だから、係数をお示しをいただきたいということなんです。積算の根拠を示せと

いうことは、そもそも積算の根拠だから、係数を乗じましたら、こうなりましたでは答弁にならない。積算の根拠ということはいくどいようですが、係数を示してもらいたい。

質問の第二点目ですが、私が聞いたのは千八百十九万一千円として一般財源を計上しておいて、一千円という端数があるけれども、この積算の根拠をお示し願いたいということで質問したわけでございます。御説明ですと、文化ホールを除く四施設三千六百平方メートルの施設で云々ということでございますが、これが積算の根拠をお示し願いたいと存じます。

次に、三番目でございますが、私は過去において特別質問をしませんでしたけれども、それは特別な事情があつて質問いたしました。あえて御質問申し上げたわけでございます。

ところで、周辺町村の鴨川市長が同意をしなかった事実はないという御答弁でございましたが、私は同意をしなかった事実があるように承つてきております。同意書を全部いただくことができなかった。それがそれで県に提出することができなかった。したがって、リージョンブラザ構想はついに実現できなかった。したがって、Ｕターンをして改めて各省予算による構想に市で切りかえた。そしていま実現の方向に向かっていくというように伺っておりますが、同意書を取った事実がありますか、同意書をいただいた事実があるかどうか。これ再質問いたします。これは重ねて申し上げますが、これは鴨川のみならず周辺町村の同意書をいただいた事実があるかどうか。

それから、四番目でございますけれども、リージョンブラザ構

想による予算規模はどのぐらいだったかという質問でございますが、確認いたしますが、七億七千五百八千円という御答弁、それがリージョンブラザ構想の全体計画であったかどうか、そのように理解してよろしいかどうか。これ確認の意味でございますが、再質問いたします。

これは、大体二億六千八百万を土地と建物で当て込んだということでございます。その内容は建物の方で二億五千万、土地の方で千八百万、合わせて二億六千八百万を当て込んだと。そしてその起債は銀行の縁故債、利率八・一％、償還期限十年、このほかに起債で十二億五千万というお答えだったように思います。これも確認の意味ですが、お伺いをいたします。

リージョンブラザ構想これはもう済んじゃったことですから、何てことはありません。事務的に。とすると、四番目と五番目の質問で、四番目の質問で先ほど確認の意味でお伺いいたしました。七億七千五百八千円の予算規模だったという四番目の御説明だったように記憶いたしますけれども、予算規模という質問したんです。リージョンブラザ構想を断念して全く市の新しい発想に立ってＵターンした感があるけれども、リージョンブラザ構想による予算規模はどのくらいだったんですかという質問をした。そうすると七億七千五百八千円、とすると、次の質問でただいま御答弁いただいたあれで、こっちの方で起債が十二億五千万というようになっていきます。そのほかに二億六千八百万と、二億六千八百万と十二億足すと、もう十何億になっちゃうことになりますよ。それとさっきの七億七千五百万との関連をちょっと素人わかりしませんけれども、もう一べん数字の金額の御説明を

願いたいと思います。

それから、次の質問でございますが、詳細にお答えいただきましたのでよくわかりました。要するに文化ホールは八億八千七百七十五万七千円、それから中央公民館が三億五千六百万円、以下御説明をいただいて、各省補助金の御説明もいただきました。起債の御説明もいただきましたんで、この質問は御答弁によってこれで打ち切ります。

次の七番目の質問でございますが、概要がほぼわかりました。面積それから地下に一階つくって、地上三階のものであるということがわかりました。ところで、これは一棟におさめてしまいうん

でしょうか。この全部の四施設を一つの棟におさめてしまいうんでしょうか。地上と地下はわかりましたけれども、それと面積もわかりましたけれども、一棟かどうか、簡単にお答えをいただきます。

それから、先ほどから出てきた文化ホールに関してはまだその前の段階だということで、文化ホールに関しては床面積については質問いたしません。浮動のようでございますから。次の質問で御答弁で文化ホールについては財源の調整をしながら検討をしていくというお答えで、文化ホールに関してはわかりましたけれども、将来実現の方向で御検討していくのか、あるいはまた全然実現を期待しないで夢のような構想としてあるのか、実現の方向に向かって検討を進めていくのかという点に関してだけ質問いたします。

それから、年次計画につきましては五十七、五十八年度で四施設をつくる。この点はよくわかりましたので質問をこれで打ち切ります。

それから、九番目の質問でございますが、従来からこの種の設計は随意契約によって委託をしてきたんで、今回も随意契約の意向であるということでございますので、御意向を承りたいんでございますが、これは金額が大きいから、議会で契約の案件として提案はしないで済むんでしょうが、どのような方法で、どのような業者、随意契約ですから二社でやるわけはありませんから、どういう方法で一社をお選びになるのか、その基準といいますか、どういう方法で一社を選定されるのか、これはお伺いをいたします。

次に、十番目でございますが、雨水と雑排水よくわかりました。ですから、これは十番目の質問はこれで打ち切ります。

十一番目でございますが、排水計画私は質問申し上げたことは将来を憂えてのことでございますけれども、経済部長さんの御答弁で、あそここの橋をかけかえをおやりになることは御答弁で了承いたしました。ところで、橋をかけかえただけでは合流したものは関係ないように思います。水路の深さを深くして、幅を広げて合流点の溢水を未然に防止する、あるいは異常増水時にはけるようにする。こういう説明ならわかるんですよ。流量がどつとふえて流れてくる増水時、きょうみたいな日は毎秒雑排水で〇・〇〇二六立米、雨水で〇・八〇六一立米流れる。これは平常のときですね。コンスタントに流れている。ちょろちょろ流れている。異常増水時はわあっと鉄砲水のように流れてくる。それが合流してあふれるおそれがあるんじゃないか。それを橋をかけかえますだけでは、かさが上った水ははけないと思うんですけれども、合流点を大きく太くするとか、大きなため池のよりな形で一たん水

を抑えるとか、ちょっと私の質問の仕方が悪いでしょうか、橋を
かけかえたって流れの量そのものとの関係がない。だから、幅を
げる。深さを深くするとか、そういうことでなければ異常増水
時の合流点の溢水は防止できないと思います。これは市民生活に
も直結する重大問題でもございますので、もう一ぺんお答えをい
たきたいと思います。

それから、もっと重大なことは、それに関連して一番最後に將
来計画、溢水対策の構想があったらお示し願いたいということに
対しまして、下水道整備対策との兼ね合いで進めていかれるとい
うことでございますが、残念ながら館山市は国の第四次公共下水
道対策の中に入らなかった。入ってやろうと運動した事実があっ
たでしようけれども、結局入れなかった。だから、下水道対策は
非常に近代都市としては遅れをとっている。これは事実です。

でございますけれども、しからば、国の第五次公共下水道五カ
年計画の中に果たして館山市が入れるかというと、いま一生懸命
に建設省と折衝しているという事実はありません。したがって、
館山の公共下水道対策は、将来いつ、どのぐらいの規模でやるか
全く見当はついておりません。見当ついていない下水道対策と溢
水対策を重ねて将来計画をするんでは、だって、五十八、五十九
年で四施設できる。できると雑排水は年々ふえていく。異常増水
時の合流点での溢水対策とても間に合いっこない。館山市に公共
下水道計画がないんだから、いまのところありませんから、した
がって十年後になるか、八年後になるか全く五里霧中の中にある
といわざるを得ないわけでございます。その点に關してもうち
よっとお答えを願いたいと存じます。以上、再質問いたします。

○市長（半澤良一君） 御質問のうち三点について私がお答えをい
たします。

リージョンプラザ構想にあたって、安房郡市広域市町村圏内の
各市町村のうち、鴨川については合意が得られなかったというこ
とを聞いているというお話ですが、これは昭和五十五年の十二月
二十三日に広域市町村圏の理事会を開催いたしましたので、その席
上で皆さん方の同意を得たわけでございます。個々の市町村長さ
ん方についてその同意書をもらったという事実はございませんが、
その理事会で承認を得たことでございますので、広域圏の意思決
定ということで申請をしたわけでございます。鴨川の市長さんが
そのときに反対をしたという事実はございません。

それから、文化ホールの建設でございますが、この関係につい
てどう考えるかということでございます。先ほど補佐のほうから
御説明いたしましたように、財政状況等を、財源の確保等を考え
ながら実現に向かって努力をいたしたいと考えております。

それから、契約方法、随契でやるわけでございますが、御説明
申し上げましたようにこれは防衛庁の補助によるものでございま
して、この補助金を得るためにはいろいろ事前の計画の説明、あ
るいは施設のレイアウト等防衛庁と打ち合わせをする関係がござ
います。そのためには専門的な設計業者が必要なのでございま
すが、防衛庁の設計業者の選び方は、従来の防音校舍等もそうで
ございましたけれども、形の上では防衛庁に登録してある業者何
名かをこちらから推薦して、向こうがその中から選ぶという形で
ございますけれども、現実には特定の業者を選んでそして事前の
打ち合わせをする、そして最終的に補助金を出す段階でこちらか

ら何名かを申請してその中から選ぶ、そういう形をとるわけですが、今回もそういう形をとるべくすでに申請を出していることとございます。ほかの補助金等の制約、これはほかに補助金等をもらうこともあるわけでございますが、防衛庁に限ってそういう形を従来習慣としてとっておりますので、そういうような形を取りたいと思っているわけでございます。

○市長公室長補佐（川上義雄君） 第一点目の防衛施設周辺整備助成補助金五百三十七万六千円でございますが、中央公民館につきましては補助金の総額は一億二千六百六十万、それから北条地区学習等供用施設が七千二十万が総額でございます。今回の設計費にかかわる分につきましては、この額に一・〇八八二五分の〇・〇二九五、この数字を掛けたものでございます。これは防衛庁長官が定める、設計補助要綱に定まる係数でございます。

なお、中央公民館のほうで若干掛けた数字が、端数ちょっと違っているようですが、その関係につきましては五十六年六月一日に防衛庁長官の補助要綱に定める係数が改正があったということで、若干違っていると思います。

それから、一五ページの歳出の千八百九万一千円の根拠でございますが、これは今回の設計委託料で二千三百五十六万七千円の追加になりました。この財源で国、県支出金が五百三十七万六千円ありますので、差し引きますと千八百九万一千円が一般財源、すなわち今回の補正では繰越金が一億七千三百二十六万六千円の補正になってますが、これらのうちから一般財源として千八百十九万一千円を、この一三節の委託料を執行するのにあたりまして財源として一般財源になるわけでございます。

それから、四番目のリージョンプラザ構想の際の規模ということとでございますが、先ほちょっと勘違いしまして失礼しました。リージョンプラザ構想の場合には四施設、それから文化ホール、合わせてリージョンプラザ構想になっておりますので、四施設の金額で七億四千三百四十三万五千円、文化ホールの関係で八億八千七百七十三万七千円、合わせて十六億三千百十七万二千元これがリージョンプラザの際の予算規模でございます。

その財源内訳で、計画策定費で千八百万、建設費の補助として二億五千万、合わせて二億六千八百万の補助に對しまして起債が十二億五千万ということで積算されます。五番目の答弁合わせて答弁いたしました。

七番目の、四施設については一棟かということでございますが、そのとおりでございます。

○経済部長（山田俊康君） 橋をかけかえるとのみ申し上げまして大変申しわけありません。

現在の橋が約四メートル程度でございますが、蛭ヶ島橋のかげかえにあたりましては六メートル、要するに橋の幅を一部分広げて吸入口を大きくしていこう、そして導流堤もつくっていこう、片方の流れが強いともう一方が停滞ぎみになりますので、そういうことのないような導流堤もまん中に設けていく。その上、河床と申しますか、底もコンクリート打ちにして三面張り——三面張りといっておりますけれども、川の流れをよくするといふ方向での改良を加えていきたいというふうに考えております。

将来計画の中で単純に下水道計画と申し上げました。大変失礼いたしました。現在も下水道計画の一環として、たとえば八幡下

水路等やっておりますけれども、ああいうような下水路事業というところで認定を受けたいということを希望して、現在折衝中でございます。そういった方向での改良ということも合わせて考えていきたいということでございます。

○一九番（石井輝久君） 再質問いたします。

第一番目の質問でございますが、ただいま御答弁をいただいておりますが、係数の点よくわかりました。そこで五十六年六月一日に若干の改定があったというんで、そのあたりの若干の狂いは別といたしまして、このように理解してよろしいか伺います。

つまり、防衛庁の内示額五百三十七万六千円というものは、一億二千六百六十万プラス七千二十万円イコール一億九千六百八十万円、掛ける一・〇八八二五、掛ける〇・〇二九五、イコールこれになるというような理解の仕方ではよろしいか。そのように私はいま御答弁を承ったんですが、このような理解の仕方ではよろしいか伺います。

それから、第二番目の質問でございますが、これは御説明で了承して質問を打ち切ります。

それから、三番目の鴨川市長の同意、不同意。これはただいまの市長の御答弁で了承しました。これはおそらく私が耳にしたことが事実ではなかったというような私の理解の仕方では、これに關しては打ち切りたところでございますけれども——これはちょっと別として、ちょっと保留をさせていただいて……。

次の、四番目の予算規模、これにつきましてはただいまの御説明で了承いたしました。質問を打ち切ります。

それから、次のリージョンプラザ構想の財源内訳、これにつき

ましても御説明で了承いたしました。質問を打ち切ります。

それから、次の文化ホールは、ただいま市長の御説明で、まだ将来の財源の見通しが立たないんで、現在のところ説明するだけの域に達していないということでございますけれども、実現の方向に向かって構想を進めたいという御答弁で、この点は了承いたしました。質問を打ち切ります。

それから、随意契約の件でございますが、これはこのように理解してよろしいでしょうか。確認の意味で。要するに、業者選考の主導権といいますが、イニシアチブといいますが、それは館山市長にはなくて防衛庁のほうの意向が極めて強いというような理解の仕方ではよろしいかどうか。この点はもう一度お伺いをいたします。

それから、最後の質問でございますけれども、ただいま経済部長から橋の幅員を二メートルばかり広げると同時に、要するに川の底を、現在洗われているけれども、コンクリートの三面張りにして、強化して、すべりをよくしていく。それから導流堤をつくり、合流点におけるのみ口を広げるといふことでございますので、おそらく技術者の専門的な調査結果に基づく設計であろうかと、私はそのような理解の仕方ではこの点は了承いたしました。質問を打ち切ります。

それから、将来計画の下水道対策。なるほどこれは私の取り方が、いわゆる館山市全体の公共下水道との関連でというふうに、私の理解の仕方では受け取ったんで、その点ではかえって恐縮でございます。まして、いわゆる三軒町水路とか、中央排水路とか、現在ある排水路の整備計画と並行して、早急にあの地域の排水計画も推し

進めるといふより理解の仕方での点は了承して打ち切ります。

○市長公室長補佐（川上義雄君） 第一点目の補助金の関係は、そのとおりでございます。

○市長（半澤良一君） 設計業者の選択につきましては、防衛庁がリーダーシップを握る、おおむねそのように御理解をいただいて結構でございます。

○一九番（石井輝久君） ただいまの御説明でその点は了承いたします。

一点だけ、先ほど保留と言いましたから。

市長の御答弁で了承はいたしましたけれども、それからもう一つ。なぜ利率償還期限を聞いたかといいますと、今回進めようとしている利率のほうが有利である。償還期限もリージョンプラザ十年、こっちは二十五年であらうかと思えます。償還期限も長いし、全体の補助率もいいような、予算的にはいいから、同じ施設をつくるんならどっちを選択するかといったら、この選択のほうを選択の仕方としては財政的にはよろしいように私は理解するわけであります。

ただ、何て言いますか、大平総理の時代でしょうか。地方の時代、それから地方の広域圏の中核都市に文化施設をつくっていくという政府の方針、それに当初館山市は乗った。乗ったけれども、乗り切れなかったのか、そこらの事情がよく飲み込めないんで、結果的には、財政だけの点からいきますと、償還期限も長いし、また利率も低いし、八・一％、今度のあれはもっと低い利率のよりに感じますから、財政的にはいいけれども、何か構想が急に変わったという点で、何か大構想の広域圏の中核都市のコミュニティ

施設という方向から、急遽館山市単独の事業に非常に大きな計画の変更だろーと思えます。

当初コミュニティの発想は、政府の方針に従って、現実には北海道から九州まで幾つかこれを実施しつつ、建設中の都市もございす。だから、そういった広域圏的な政府の発想に乗らずに——財政的な面は御説明で承った了承はいたしましたけれども、なんで広域圏的な構想で発足したこの構想が館山市単独の施設に大変更した事情が飲み込めないんで、最後にその間をお聞きいたします、答弁をお伺いしつ放しで私は質問を終わります。

○市長（半澤良一君） リージョンプラザ構想が自治省から打ち出されたのは、五十四年の十月ごろからでございます。五十五年年度に初年度として発足しより、こういふことでございましたが、実はその前に館山市としては公民館あのとおり状態でございすし、また国のほうから保健センターもつくるよりなというより——これは全国各市町村に一千カ所でございすか、つくるといふような構想もございまして、しかしそうした構想に乗ることも結構なことではございすと思ひますが、やはり建物をいろんな形で別々に建てるということは大変不経済でございすので、複合施設をつくりたい、そういう構想を持っていたところに、自治省が地域文化振興のために全国の広域市町村圏に大規模な文化施設を中核としたリージョンプラザ構想を立てて、そして一カ所三十億から五十億くらいかける、総額で一兆円以上になるといふ膨大な構想を立てたわけでございます。

しかも、そのときの当初の計画は——実は、リージョンプラザ構想というのは大変変化をいたしましたして、最初の構想は、各省庁

の補助金の上に施設三億程度の補助金を出す、設計費についてはおそらく十億程度の事業費を見込んで、その設計費及び事務費は大体五・四億だと五千四百万かかる、その三分の一を補助して千八百万補助しよう、そういう構想であつたわけでございますが、そういう意味で地域中核複合施設という名目で五十五年度は発足をいたしましたわけでございます。

それが、五十六年度になりますと、予算との関係がございまして、なかなかこれが国会を通りませんで、承認を受けられませんが、国会といいますが、大蔵省でございすけれども、得られないので、そこで昨年の十二月五日だつたと思いますが、自治省と国土庁が話し合ひで、田園都市構想に乗せて、田園都市中核複合施設というように名前が変わりました。そのときに、段階で、各省庁からの補助金の上にプラスという考え方がなくなりまして単独な補助——ほかの省庁からの補助金が得られないということにまづなりました。

それから、当初は広域圏の中核都市単独の——本来は広域圏全体の事業としてやる、しかし中核都市単独でもいいという構想であつたわけでございますが、そういうことで発足したにもかかわらず五十六年度にはいろいろ制約ができてまして、いろいろ条件がありまして、その起債を各市町村が負担をしなければいけないとか、あるいは少なくともその利息分だけは各市町村が負担をしなければいけない、そういうような制約ができましたんで、私どもが最初に考えておりました市単独でやるんだけれども広域圏の施設として事業を進めるといふ、そういう考え方が変わってしまったわけでありす。そういうことで実現が不可能だということでお

りたわけでございます。

最初は——何遍も申し上げますけれども、各省庁の補助金をもつた上で、なおかつ自由に使える補助金という形で三億もみたわけでございます。それが不可能になりましたので、リージョンブラザ構想に乗ることをやめてもとの計画に変えた。そういう意味で確かにUターンということでございますけれども、そういう経過があつたわけでございます。

○議長（林 豊君） 以上で一九番議員君の質を終わります。

以上で質を終わりました。

委員 会 付 託

○議長（林 豊君） ただいま議題となつております議案第六十一号及び議案第六十二号昭和五十六年度館山市一般会計及び水道事業特別会計の各補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

動 議

○一二番（栗原一雄君） この際、動議を提出いたします。

市当局におきましては、コミュニティ施設用地を取得し、諸施設の建設が予定されているところでありますが、市議会といたしましても、議会の立場から、現有する公共施設全般について抜本的に検討する必要があるかと思ひます。

よつて、この際、十三名の委員をもつて構成する公共施設等調査特別委員会を設置し、これに付託の上、調査されるより望みます。

なお、調査期間につきましては、調査終了するまでとされます
より重ねて要望いたします。

何とぞ満場の御賛同を賜りますよう、ここに動議を提出いたします。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） ただいま一二番議員君から、現有する公共施設全般について抜本的に検討する必要上、議会の立場から調査、研究するため、十三人の委員をもって構成する公共施設等調査特別委員会を設置して、これに付託をし、なお調査の期間については、調査終了までとするということで動議が提出され、所定の賛成者がありますので動議は成立いたしました。

日程の追加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

この際、動議を日程に追加し、議題とすることに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よってこの際本動議を日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

公共施設等調査特別委員会の設置、付託、委員の選任

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本動議のとおり決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本動議は可決

されました。

重ねてお諮りいたします。

ただいま設置されました公共施設等調査特別委員会委員の選任につきましては、委員会条例第四条第一項の規定により、二番議員石井 謀君、五番議員福原 勤君、一四番議員渡辺昭夫君、一五番議員伊藤幸太郎君、一八番議員流山源次郎君、一九番議員石井輝久君、二一番議員吉田勇治郎君、二二番議員藤田益治君、二四番議員和田一郎君、二六番議員伊賀多朗君、二七番議員石井正君、二九番議員安西益男君、三〇番議員山口 康君、以上十三名を指名したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よってただいま指名いたしました十三人の諸君を公共施設等調査特別委員会委員に選任することに決しました。

請願書の 上程

○議長（林 豊君） 日程第三、請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願ひます。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 以上で朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願書について紹介議員の説明を求めます。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) 請願第五号西岬地区学校統合反対の請願書について紹介をいたします。

西岬地区の学校統合問題は、この請願の署名六百四十一名からも明らかのように、西岬住民の意向を十分に尊重したものはなっておりません。

現状のまま住民との話し合いなどもなされず、事態が進行するとすれば、大きな混乱をもたらすものになりかねません。かたくなな態度は、混乱を助長するだけであります。

市当局はもちろん、住民の代表たる議会としても、西岬住民の意向を十分に確めた上で統合を論議しても遅くないはずであります。

教育は百年の計といえます。一時の行きがかりで将来に禍根を残してはなりません。

この点をあえて強調し、議員の皆さん方の御同意を得たいと、この請願を紹介するものであります。

○議長(林 豊君) 以上で一番議員君の説明を終わります。

委員会付託

○議長(林 豊君) 本請願書につきましては文教民生委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長(林 豊君) 日程第四、請願第六号西岬地区学校統合早期実現に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(林 豊君) 以上で朗読を終わります。

請願書の趣旨説明

○議長(林 豊君) 次に、請願書について紹介議員の説明を求めます。

(一九番議員石井輝久君登壇)(拍手)

○一九番(石井輝久君) 私は、西岬地区コミュニティ委員会委員長池田公憲先生から当議会に提出されました請願第六号西岬地区学校統合の早期実現に関する請願書について、その趣旨に賛同し、紹介議員十名に成りかわりまして趣旨を御説明し、議員各位の満場一致の御賛同をお願いするものであります。

この請願書には、館山市立西岬中学校の廃止という事態に直面している地区の方々が、その長い伝統を失うことになり、心情的にまことに同情にたえないものがあることをまずもって率直に申し上げなければならぬと思います。

さらには、また中学校よりはるかに古くその淵源をさかのぼれば、西小学校は明治七年四月、当時は伊戸小学校に始まり、その後明治二十二年に西小学校と改まったものでございます。東小学校もまた明治七年四月に塩見小学校として発足し、明治三十九年に東小学校の名称となって今日を迎えるという輝かしい伝統校というにとどまらず、当議会におきましても、先輩の吉田勇治郎元議長さんが西小学校、また同僚福原 勲議員が東小学校をそれぞれ御卒業になられたその母校を失うだけでなく、数多くの優秀な

卒業生を輩出した両小学校が廃止されてしまうことに對し、同情の念禁じ得ざるものがあります。

しかしながら、時代の変遷は免れることができない厳肅なる事実をもっていることを指摘せざるを得ません。

明治にありましては、あの富国強兵の国策のもとに日清戦争を経て日露戦争をこの二つの小学校の教師また児童は体験しております。さらに、さかのほれば、明治十年の西南戦争、あの西郷隆守が政府軍に敗れた当時、すでにこの両小学校は体験をしているわけでありました。その後大正の時代に入りましては、第一次世界大戦を体験し、昭和に入つては、満州事変を経て日華事変、太平洋戦争、そして敗戦をもつて日本帝国に終えんを告げ、戦後の民主主義の時代を迎え今日に至っているその歴史的事実を顧みる時、閉校という事実に向ひし、うたた感慨にたえないものがあり、まことに同情の涙を禁じ得ませんが、いまや館山市の教育環境の様相は一変し、近代的な施設環境のもとに、高校進学があたかも義務教育であるかのような感を示してきた時代の変化、それだけではなく、父兄はその子弟を女子なら短期大学へ、男子なら短大でなく四年生大学に進学させたいという、教育ママさんたちの激増という時代の波に抗しきれぬものではございません。ひとり西岬だけが例外というわけにはまいりません。

その時代的背景と西岬の東、西両小学校の実態、教育内容を見るに、この両校とも教壇に立つて子供を教える教師の数がわずかに六人でございます。それに教頭、校長がおりまして計八人。両校とも養護教諭は配置されておりません。それだけではありせん。理科、体育、美術、音楽などの免許状をお持ちの先生は一人

も配置されておりません。子供の情操教育だけでなく、先生が忙しすぎて研修のいとまもない実態をながめるとき、教育上のアンバランスを指摘せざるを得ないのです。

無限の可能性を内に持つ、つまり内包している子供たちが、中学校、高校、短大ないしは大学に、あるいは進学しなくても、社会に出たときを想像するとき、私ども館山市の大人たち、特に議会人たる私は暗然とせざるを得ません。

国家百年の大計とまではいわずとも、館山市教育の将来を思うとき、何とか教育内容のアンバランスを解消しなければならぬと考えるのは、私一人ではありません。

この二つの小学校が統合されれば養護教諭一名が確保されます。また体育、音楽、この専科教諭も配置されることであります。そうなれば音痴の解消——これは西岬の御出身者が音痴だといふのではありませんが、少なくとも音楽に理解を寄せる大人に育っていくのはありますまいか。

子供たちにとって、東小学校の百五十五名、西小学校の百二十三名の友だちから、この統合によって二百七十八名の友だちにふえる、つまり交友関係の厚みが増して、将来何らかの選挙にでも立候補しようとする際は、大いに助かることは言を待たずでもありません。

中学校の廃止、そして二中への通学にありまして、ほぼ同様な厳肅なる事実を指摘できます。

いまの西岬中学校の生徒数百五十八名、先生の実働数——教壇に立つて教えることのできる教員の数はわずかに十名、体育、美術の先生に欠けているだけでなく、国語の先生が社会科の授業

の担当をさせられ、音楽の免許状を持っている先生が美術と家庭科を担任し、体育の授業も体育の免許状を持っていない社会科の免許状を持った先生が二人も、そしてまた国語の先生が一人、合わせて三名の助っ人、つまりピンチヒッター教諭で教えている現況を知れば暗たんたる気持ちに陥らざるを得ません。それこそ教育の内容の乏しさこそを嘆かなくてはならないのではありませんでしうか。

クラブ活動の面、つまり子供の趣味などの活動面からながめると、男子生徒の場合、卓球、野球、剣道、水泳、この四つのクラブしかございません。女子は、わずかにクラブが三つ、バレーボール、卓球、剣道しかないのでございます。これがどうですか。館山二中に通学することになりますと——これは反対している親御さんたちは御存じないのでありましょうか。伺いたいところでありませうけれども、それはともかくとして——二中に参りますと、野球、柔道、剣道、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、水泳、サッカー、卓球、テニス、化学、プラスバンド、合唱——これは音楽の合唱でございます。それに家庭、さらに放送、十五のクラブがございまして、これに自由に参加することができまう。以上は男子でございます。女子にありましても、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、水泳、卓球、テニス、剣道、さらに柔道——女の子でも柔道がございまして、場合によっては暴漢に襲われてもだいじょうぶ、さらにバントントゥワラー——あの太いものを出して活発にバンドをたたいて行進するバントントゥワラーです。それに英語、放送、これで十一のクラブ活動となるのであります。こういった事実を反対者の親御さんたちは御存じなの

でありましょうか。

教育内容にありましても、英語、国語、数学、理科をはじめ全部の教科の教師がそれぞれ専門に教えてくれます。兼任の先生なんか一人だっているわけがございません。バランスのとれた教育、全教科にわたっての専門教育が実施されることは言うまでもありません。必ず教育内容の充実がみられるはずで、子供の教育上期して待つべきものがあると私は信じて疑わないのであります。

それだけではない。生徒の自治活動、それに奉仕活動。こうなるとやや専門的になりましようけれども、聞く耳を持たない人々には申し上げてもしょうがないかもしれませんが、いま西岬中で百五十八人の仲間の奉仕活動、あるいはまた自治活動と、八百人の仲間とともにする活動との差はおのずから歴然たるものがございいます。

まあ、長々と申し上げましたが、以上るる御説明いたしましたように、西岬地区の子弟が今日長い将来にわたって教育の機会均等と教育内容の向上に期するところ尽大なるものがあることを強調しつつ、またそれを期待しつつ趣旨説明といたしますが、なお最後に申し添えたいのは、当局に置かれましては、請願書に別添の地元の要望につきましまして誠意をもって実現に努め、いやくもあの地区の方々がだまされたなどといういまわしい批判が将来にわたって生じないよう御配慮を要望いたします。

何とぞ満場一致の御賛同を賜らんことを重ねてお願いを申し上げます。御清聴ありがとうございます。ありがとうございました。（拍手）

委員長 会 付 託

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては文教民生委員会に付託いたします。

延 会 午後五時二十六分延会

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よつて本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明十二月十六日から十八日まで委員会審査のため休会、次会は十二月十九日午前十時開会といたします。その議事は、議案第五十五号乃至議案第六十二号等にかかわる各委員会における審査の経過並びに結果の報告、討論、採決、追加議案の審議いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第五十五号乃至議案第六十二号

二、動議

一、日程の追加・公共施設等調査特別委員会の設置、付託、委員の選任

二、請願第五号及び請願第六号